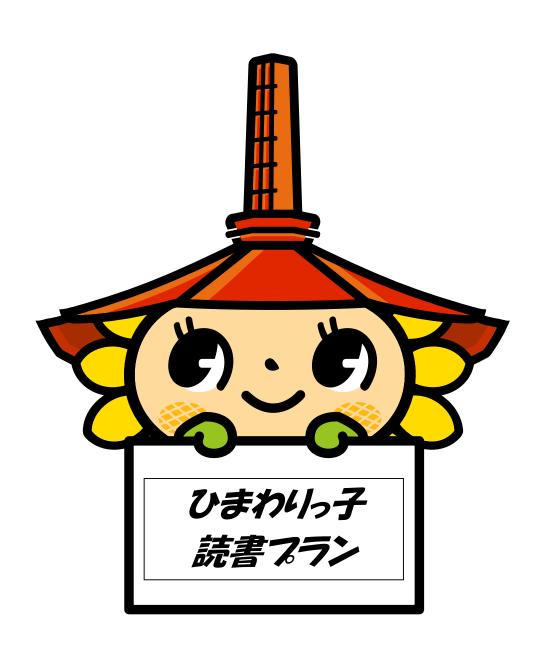
野木町子ども読書活動推進計画書 (第三期)



平成30年(2018)3月 野 木 町 教 育 委 員 会

あいさつ

野木町長 真瀬 宏子

この度、野木町では第三期となります「子ども読書活動推進計画書」ができあがり、さらなる子どもの読書活動を推進する上で、大変重要となる新たな指針が打ち出されたことは、町の将来のためにも大きな収穫であると心より喜んでおります。未来を託す子どもたちが、よりよい読書の習慣を早いうちに身につけることは極めて重要であり、その必要性は誰もが認めるところです。子どもの読書活動の推進に関する法律には「子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの」と記されております。特に、幼い頃から本に親しむことは、その後の子どもの読書活動に大きく影響し、人生を豊かに彩り、強くたくましく生きる力を与えてくれるものと信じております。

本町では、平成25年3月に、子どもの読書活動を定着させるためには、家庭での読書環境づくりが最大の課題であるということを踏まえた「第二期計画」を策定し、5年間、子どもの読書活動を推進してきました。さらに、平成26年11月には「キラリと光る読書のまち野木」を宣言し、「家読」を始め、全町民の読書活動を推進する「読書のまちづくり」に取り組んできました。その結果、家庭及び保育園・幼稚園、小・中学校、町立図書館における子どもの読書活動はより一層充実してきました。このことは、特に、町立図書館が健康福祉課と連携して実施しているブックスタートを始め、読み聞かせ、紙芝居、布絵本の制作などを、長期間に渡って熱心に取り組んできた成果であると考えられます。これらの活動を支えてくださっている多くのボランティアの皆様方に、この場をお借りしまして深く御礼申し上げます。

今般、今までの成果と課題を検証し、さらなる充実を図るべく「第三期計画」を策定しました。この計画に基づき、これからも読書の楽しさや大切さを子どもに伝え、本と出合うための環境を整えることにより、子どもがより多くの本に親しみ、読書の習慣を身に付けられるよう取り組んでまいりますが、そのためには、家庭、学校、地域の連携・協力が不可欠であります。一人でも多くの子どもが、すばらしい本と出合い、感動し、これからの人生が意義深いものとなるよう心から期待し、本計画を積極的に推進してまいりますので、ご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたってご協力を賜りました多くの皆様に、心より 感謝申し上げます。

目 次

町長あいさつ

第]	L部		三期	目計画	新定の基	基本方金	+																				
	第	1	章	計画	策定の背	背景																					
			第 1	節	子ども記	売書活重	かの重	要性	ŧ	•		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	1
			第2	節	国の動向	· · ·		•		•		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	1
			第3	節	県の動向	· · ·		•		•		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	2
			第4	. 節	本町には	おける子	こども	読書	 皆活	動	取り)組	み	状沙	군•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	2
	第	2	章	野木	に町の現場	犬と課題	直																				
			第1	節	子ども記	売書活重	かの実	態と	:課	題		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	4
			(1)	書に関す	上る実態	景アン	ケー	ート	調	査	(児	童:	生徒	€~	(D)	質	問)	等	ょ	り						
			(2	2) 請	書に関す	上る実態	以アン	ケー	ート	調	査	(保	護	者~	\O)	質	問)	垒	まよ	り							
			第 2	節	平成29	年度末	に期待	身され	た	目標	票に	対	する	家	庭で	ごの	児i	童生	:徒	のi	売書	事事	三 績	きと	課	題・	8
			第3	節	平成 2 9	9年度末	ミに期	待さ	きれ	た	目標	票に	対	する	5町	'内	学村	交区	書	館	O) :	実	績	<u>ا</u> ح	課是	夏•	8
			第 4	節	平成 2 9	9年度末	ミに期	待さ	きれ	た	目標	票に	対`	する	5町	<u>\\\</u>	図		言の	実	績	と	課	題			9
			第 5	節	平成29	年度末	に期	待さ	わ	た	目標	に	对了	ナる	\sum_{i}	المنظم المنط	も教	有	課の	ひま	尾網	長と	: 謂	腿	į		9
	第	3	章	基本	的な考え	た方																					
			第 1	節	計画策定	三の目的	J		•	•		•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	0
			第 2	節	計画の村	主と基本	で的な	方向	<u>,</u>	•		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	• 1	O
			第3	節	計画の期	期間及て	バ対象			•		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	• 1	3
			第 4	節	財政上の)措置		•		•		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	• 1	3
第2	2 部		野木	で町に	おけるヨ	子ども訪	港書活	動扌	推進	07	ため	りの	方	策													
	第	1	章	家庭	E における	3子ども	読書	活重	サの	推ì	焦	•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	1	4
	第	2	章	学核	をにおける	3子ども	読書	活重	サの	推ì	焦																
			第 1	節	学校にお	さける子	こども	の記	売書	習	貫の	D形	成	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	1	6
			第 2	節	学校図書	書館の 鏨	፟ዾ備・	充复	É			•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	1	8
	第	3	章	町立	図書館に	こおける	う子ど	`も記	売書	活動	動の)推	進														
			第 1	節	図書館資	資料の整	፟ዾ備・	充領	ۥ	•		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	1	9
			第 2	節	図書館和	刊用の仮	2進・	•		•		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	1	9
			第3	節	乳児・幼	カ児への)支援	•		•		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	2	0
			第 4	節	小学生~	への支援	堂••	•		•		•	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	2	3
			第5	節	中学生。	- 高校生	三及び	特別	川な	支担	爱る	と必	要	とす	トる	子	~(りま	泛援	•	•	•	•	•	•	2	4
			第6	節	町立図書	書館と学	之校区	書館	官の	連	隽引	鱼化	•		•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	2	5
			第7	節	町立図書	볼館と係	R 育園	·½	力稚	園(の連	直携	強	化	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	2	6
			第8	節	図書館は	ドランラ	ニィア	<u>ک</u> و	D連	携	• 接	協力	<i>D</i>	促進	≝ •	•	•		•	•	•	•	•	•	•	2	7
			第9	節	図書館間	引におけ	ける連	携	- 協	力	の低	2進	•													2	8

第4章	地域	における子ども読書活動	かの推進										
第1	節	保育園・幼就園等におり	ける読書	活動の	推進・			•		•	•	•	2 9
第2	節	子育て支援センターにお	さける読	書活動の	の推進			•		•	•	•	3 1
第3	節	公民館・児童館等におり	ける読書	活動の	推進・	• •		•	• •	•	•	•	3 1
第5章	普及	啓発・広報活動の推進											
第1	節	各種関連情報の収集・排	是供 ・			• •		•	• •	•	•	•	3 2
第2	節	総合的な啓発活動の推進	些 •			• •		•	• •	•	•	•	3 2
第3	節	推進計画書概要版の作品	文 •	• • •	• • •	• •	• •	•	• •	•	•	•	3 3
※ 20	2 2 4	医末に期待される目標	•		• • •				•		•		3 4
(資料編)	• 野	木町子ども読書活動推進	進計画策	定委員会	会設置	要領							
	• 野	木町子ども読書活動推進	生計画策	定委員:	会(委	員、	作業	班)	名	簿			
	• 野	木町子ども読書活動推進	生計画(第二期)	策定	アン	ケー	・ト請	周査	の棋	既要		
	• 野	木町立図書館所蔵・布線	会本一	覧									
	• 野	木町立図書館所蔵・基本	k絵本一	覧									
	• 野	木町立図書館所蔵・特力	て絵本一	覧									
	• ボ	ランティア団体一覧											
	• 野	木町の概況と「キラリと	と光る読	書のま	ち野木	宣言							

第1部 第三期計画策定の基本方針

第1章 計画策定の背景

第1節 子どもの読書活動の重要性

近年、子どもたちを取り巻く生活環境の変化は、インターネット、携帯電話、スマートフォンなどの情報メディアの著しい発達により、映像を通して簡単に情報が得られるようになり、子どもたちが読書に親しむ機会や書物を読んで調べる習慣は、徐々に失われつつあります。

子どもの読書活動は、豊かな言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を 豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で、欠くことのでき ないものです。特に、乳幼児期からの本との出合いが最も大切であり、家庭での読 み聞かせは、本との出合いばかりでなく親との絆を深める貴重な時間でもあります。 さらに、幼少期における良い本との出合いは、その後の人生に夢や輝きを与えるな ど、人生をより豊かで深いものにしていく重要な役割を担っています。

そのため、第三期計画では、子どもの健やかな成長のために、すべての子どもに本と出合う機会を与え、読書の楽しさを味わえるように「いつでも、どこでも、だれでもが、読書できる環境」を整え、子どもの主体的な読書活動を支えるための条件整備を、第二期計画を振り返り、改善充実を図ることが求められます。

第2節 国の動向

国においては、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行されました。これは、子どもの読書活動の推進に関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明らかにしたものです。この法律に基づき、平成14年8月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」以下「国の基本計画という。」)が策定され、平成20年3月には「第二次国の基本計画」が、平成25年5月には「第三次国の基本計画」が策定されました。

さらに、文字・活字文化の振興に関する施策の総合的な推進を図ることを目的として、平成17年7月に「文字・活字文化振興法」が制定され、基本理念に「すべての国民が豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備すること」、そのために、「学校教育においては、読む力、書く力、及び言語力の涵養に十分配慮すること」が規定されました。

また、平成18年12月の「教育基本法」改正に伴い、平成19年6月には「学校教育法」が改正され、義務教育として行われる普通教育の目標の一つとして「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと」が規定されました。その後、社会情勢や子どもの読書活動を取り巻く環境の変化等を踏まえ、国及び地方公共団体における取り組みについて、平成25年5月に新たな基本計画が示されています。

第3節 県の動向

栃木県においては、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第4条に基づき、平成16年2月に「栃木県子どもの読書活動推進計画(以下「計画」という)を、平成21年3月に「第二期計画」を、平成26年3月に「第三期計画」を策定し、「読書を通じて人間として成長し、豊かな人生を実現する子どもを育む」ことを目的に、県内のすべての子どもが、あらゆる機会や場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭、地域、学校、図書館など社会全体で取り組むための環境整備を目指し、各種施策が推進されています。

第4節 本町における子どもの読書活動取り組み状況

本町においては、国や県の動向に基づき、平成20年3月に「野木町子ども読書推進計画(以下「計画」という。)」として、「子どもが読書に親しむ機会の提供と充実」、「子どもの読書環境の整備と充実」、「子どもの読書活動に関する理解と関心の普及」、「推進体制の整備」を4本の柱にし、「ひまわりっ子読書プラン」を策定しました。

また、平成25年3月、子どもの読書活動を定着させるためには、家庭での読書環境づくりが最大の課題であるということを踏まえた「第二期計画」を策定し、「子どもの読書活動の推進」を家庭、学校、地域に分け、それぞれの部門で役割を具体的かつ明確にするとともに、「家庭における子ども読書活動の推進」、「学校における子ども読書活動の推進」、「町立図書館における子ども読書活動の推進」、「地域における子ども読書活動の推進」と「普及啓発・広報活動の推進」を計画の5本の柱として、5年間取り組んできました。その間、平成26年11月には「キラリと光る読書のまち野木」を宣言し、家読(うちどく)を始め、全町民の読書活動を推進する「読書のまちづくり」に取り組んできた結果、子どもの読書活動はより一層充実してきました。

「第二期計画」のそれぞれの柱に基づき実施した主な内容は次のとおりです。

1本目の柱である「家庭における子どもの読書活動の推進」については、町立図書館が健康福祉課と連携し、ボランティアの協力を得て実施しているブックスタート事業や、町立図書館等におけるおはなし会を定期的に実施するなど、乳幼児期から読書に親しむ機会の充実を図りました。特に、ブックスタート事業は親と子の絆づくりにおいても大変有効でした。また、家読の普及のための講座の開催や保護者へのリーフレットの配布等、家庭での読書の取り組みの重要性の啓発に努めてきました。

2本目の柱である「学校における子どもの読書活動の推進」については、町内全校において一斉に読書する時間を確保し、読書習慣を身に付けることや、小学校において「全校読み聞かせ」の時間を設け、本への興味を喚起してきました。また、読書週間には、地域の方との協働により読書活動の計画を立て、読書活動を有効にすすめてきました。学校図書館資料の整備については、子どもたちが興味をもつ本や感動する本などの充実に努めました。また、学校図書館が「読書センター」や「学

習情報センター」として機能するよう全校に学校司書を配置し、学校図書館運営の 充実を図りました。

3本目の柱である「町立図書館における子どもの読書活動の推進」ついては、小 学校5校への移動図書館「ひまわり号」の巡回や小・中学校7校への団体貸出によ り、子どものほか教職員にも図書資料の貸し出しを行い、子どもの読書活動の推進 を図りました。また、夏休み中には小学生図書館員体験の実施や、保育園・幼稚園 の年長児を図書館に招待し、館内の案内や人形劇・おはなし会などを行い図書館を 身近に感じてもらう事業を実施しました。その他、乳児絵本コーナーの拡張や野木 町立図書館の特色のひとつである「布絵本」の利用促進を図り、乳幼児を始め障が いのある子どもたちが親しめる蔵書の充実に努めてきました。

4本目の柱である「地域における子どもの読書活動の推進」については、保育園 ・幼稚園や子育て支援センターにおいて、子どもたちが本に親しみを持てるよう計 画的に読み聞かせを行うとともに、絵本コーナーの充実を図ってきました。また、 保護者に対し家庭における読書活動の重要性の啓発に努めました。学童保育施設や 児童館、公民館においても、町立図書館と連携を図り、子どもに魅力のある図書資 料を揃えるなど図書コーナーを充実させ、子どもにとって身近な読書活動の拠点と なるよう努めました。

5本目の柱である「普及啓発・広報活動の推進」ですが、国、県、他市町の読書 活動に関する情報や町立図書館における子ども向けの事業、新刊情報、優良図書の 紹介などを、町ホームページなどの各種情報媒体を用いて情報提供に努めてきまし た。また、町立図書館や学校を中心に年間を通して子どもの読書活動を啓発すると ともに、家族で本に親しみコミュニケーションを図り、家族の絆を深める「家読」 を推奨し、家庭における子どもの読書活動の推進に努めてきました。

このような取り組みの成果として、全国学力状況調査から「読書好き」や「学校 図書館や町立図書館の活用率」は全国平均よりかなり上回り、良好な結果となって いる他、小学生においては家庭で本に親しむ子どもたちが徐々に増えてきているな ど、家庭及び保育園・幼稚園、小・中学校、町立図書館における子どもの読書活動 は着実に推進されていると思われます。これからは、乳幼児、園児、小学生の読書 活動の推進は勿論のこと、中学生の読書活動の推進を図るために、「第二期計画」の 5本の柱を基本とした取り組みを継続するとともに、学校図書館司書の全校配置を 生かし、多くの子どもたちが読書の楽しさを味わい読書習慣が身に付けられるよう、

第2章 野木町の現状と課題

第1節 子どもの読書活動の実態と課題

(1) 読書に関する実態アンケート調査結果(児童生徒への質問)

問 あなたは、本を読むことが好きですか。

		小 学 生		中 学 生			
	H20. 4	H24. 10	H29. 11	H20.4	H24. 10	H29.11	
①好き	58. 9	59. 7	51. 2	47. 9	45.8	50.6	
②どちらかといえば好き	31. 4	30. 9	35. 0	38. 1	42. 3	35. 8	
③どちらかといえばきらい	7. 6	6. 9	9. 5	11. 1	10. 1	10.8	
④ きらい	2. 1	2.5	4. 4	2.9	1.8	2.8	

[☆]小学生、中学生とも「好き、どちらかと言えば好き」を合わせた数字は86%を超えていますが、平成20年、平成24年よりも減少しています。

問 あなたは、1ヶ月にどのくらい本を読みますか。

		小 学 生		Ε	中 学 生	
	H20.4	H24.10	H29. 11	H20.4	H24. 10	Н29.11
① 1~2冊	18.8	10. 4	14. 3	38. 1	45. 2	37. 5
② 3~4冊	22. 5	25. 7	27. 5	40. 7	29.8	27.8
③ 5~6冊	21. 4	19. 7	20.8	12.6	9. 5	15. 9
④ 8~10冊	12. 1	15. 6	13. 9	2. 2	2. 4	4. 6
⑤ 11冊以上	19. 3	26. 9	16. 6	1. 7	8. 3	7. 4
⑥ ほとんど読まない	5. 9	1. 7	6. 9	4. 7	4.8	6.8

[☆]小学生では、4年前に比べて月に1~6冊本を読む児童が増加していますが、8冊以上本を読む児童は減少しています。また、ほとんど本を読まない児童が大幅に増加しています。

[☆]中学生は、1 か月に $1\sim4$ 冊本を読む生徒は減少していますが、 $5\sim10$ 冊本を読む生徒は大幅に増加しています。また、本をほとんど読まない生徒は、多少増加しています。

問 あなたが今までに読んでみたいと思った本は、どんなきっかけで知り増したか。 (2つまで)

		小 学 生		Ε	中 学 生	
	H20. 4	H24. 10	H29. 11	H20.4	H24. 10	H29. 11
①学校の図書館で見かけた	21. 2	16. 5	20. 3	2. 9	9.8	10. 2
②町の図書館で見かけた	18.8	18. 6	13. 9	2. 7	2. 7	4. 6
③本屋で見かけた	25. 7	23. 0	17. 1	39. 0	35. 7	31.8
④友達に教えてもらった	10.8	11. 1	12.8	21. 9	13. 4	16. 2
⑤先生にすすめられた	1. 9	1.6	1. 7	0.0	0.6	0.6
⑥親にすすめられた	3. 3	5. 3	4. 3	4.8	3. 9	3. 1
⑦新聞・雑誌で見かけた	2. 2	1.9	1. 6	8. 3	4. 2	2.8
⑧映画で知った	6. 5	4. 2	5.8	6.8	8. 3	10. 5
⑨テレビ・ラジオで知った	5. 3	5. 6	4. 7	9. 5	7. 4	5. 4
⑩その他	4. 3	7. 9	7. 3	4. 1	5. 4	4. 3
無回答		4. 3	10.6		8.6	10.5

☆小学生は、「学校の図書館で見かけた」が4年前より増加しており最多です。中学生は、4年前と同様、「本屋で見かけた」が最多です。小学生、中学生共に、「友達に教えてもらった」、「映画で知った」が増加しています。

問 あなたは、家族と読んだ本の内容について話をしますか。

		小 学 生		中 学 生			
	H20. 4	H24. 10	H29. 11	H20.4	H24. 10	H29.11	
①よくする	18. 1	16. 2	14. 8	6. 4	9. 5	6.8	
②たまにする	40. 1	34. 4	35. 2	32. 9	28. 0	26. 7	
③あまりしない	24. 0	25. 7	28. 2	26. 4	28. 0	24. 4	
④ぜんぜんしない	17.8	23. 7	21.8	34. 3	34. 5	42. 1	

☆小学生の傾向は大体同じですが、中学生は、家族と読んだ本の内容について話を「ぜんぜんしない」が大幅 に増加しています。

問 あなたは、家族に本にすすめたり、家族からすすめられたりしたことがありますか。 (H20 は、設問なし)

		小 学 生		中 学 生			
	H20. 4	H24.10	H29. 11	H20.4	H24.10	H29. 11	
①よくある		16. 3	19. 6		10. 1	11. 4	
②たまにある		35. 3	32. 5		40. 5	31. 3	
③ほとんどない		23. 5	25. 1		20.8	25. 6	
④ない		24. 7	22. 5		28. 6	31.8	
無回答		0.2	0. 5		0.0	0.0	

☆小学生については、ほとんど変化が見られませんが、中学生は、「よくある」、「たまにある」を合わせると

42. 7%で前回より大幅に減少しています。

問 あなたは、心に残っている本やもう一度読んでみたい本がありますか。

	1.	小 学 生		中 学 生			
	H20. 4	H24. 10	H29. 11	H20.4	H24. 10	H29. 11	
①ある	70. 4	78. 5	79. 7	59. 7	70.8	73. 6	
②ない	29. 6	21. 5	20. 3	40. 3	29. 2	26. 4	

[☆]小中学生とも「心に残っている本やもう一度読んでみたい本がある」が増加しています。

(2) 読書に関する実態アンケート調査結果(保護者への質問)

問 読み聞かせは大切と思いますか。

	保	護 者	
	H20.4	H24. 10	H29.11
①思う	90. 9	89. 0	91. 0
②思わない	1. 2	1.2	1.8
③どちらとも言えない	7.9	9.8	7. 3

[☆]平成24年の時と同じく保護者は読み聞かせは大切と思っています。

問 あなたは、どうすれば今の子どもたちがもっと本を読むようになると思われますか。 (3つまで)

	保	護者	
	H20.4	H24. 10	Н29. 11
①子どもが小さい時から、親が本の読み聞かせをする	17. 7	16. 3	15. 3
②子どもが小さい時から、親子で本を読む時間をつくる	44. 3	19. 1	21.4
③子どもが小さい時から、親子で図書館等へ出かける	3. 6	11. 5	13. 2
④テレビやテレビゲームの時間を短くする	6. 7	13. 7	14. 2
⑤家に近くに図書館等の本を借りられる施設があるとよい	3.8	7. 3	7. 3
⑥学校や町立図書館等に子どもが読みたい本をもっとたくさん置く	7. 0	8. 2	9. 4
⑦学校教育の中に「朝の読書」などの時間を増やす	11. 9	12. 3	12. 9
⑧わからない	3. 2	0.8	1.2
⑨その他	1.8	1. 5	1. 1
無回答		9.3	4. 1

★H24と順位は大きな違いはありませんでした。「子どもが小さい時から、親子で本を読む時間をつくる」が19.1%から21.4%に、今回2.3%よくなっています。やはり、理由の第1位になっています。理由の第2位は、前回と同じく「子どもが小さい時から、親が本の読み聞かせをする」でした。前回も今回も第3位は、「テレビやテレビゲームの時間を短くする」でした。順位は前回と同じでした。無回答も4.1%ありました。

問 あなたは、家族と読んだ本の内容について話をしますか。

	保	護者	
	H20.4	H24. 10	H29.11
①よくある	7.8	10.0	11. 3
②たまにある	43. 5	43. 3	41. 2
③あまりない	38. 2	31. 2	32. 2
④ ぜんぜんない	10.5	15. 2	14. 2
無回答		0.3	1. 1

☆この質問に対する回答の傾向は前回と同様であり(この質問は小中学生にも行っています)、「たまにある」が1位であり、「よくある」と合わせて52.5%であり、前回の53.3%より若干減少しています。

問 あなたは、家族に本をすすめたり家族から本をすすめられたりしたことがありますか。 (H20 は、設問なし)

	保	護者	
	H20.4	H24. 10	H29. 11
①よくある		10. 7	12. 9
②たまにある		44. 4	45. 7
③あまりない		31.0	28. 7
④ ぜんぜんない		13. 6	11. 7
無回答		0.3	1. 1

^{☆「}たまにある」が40%強で一番多く、「よくある」と合わせた割合は60%近くとなっています。

問 あなたは、図書館や書店で借りるまたは買うとき、親子で本を選んだことりますか。 (H20 は、設問なし)

	保	保 護 者	
	H20. 4	H24. 10	Н29. 11
①よくある		18. 9	20.0
②たまにある		55. 9	50. 3
③あまりない		17. 5	21. 4
④ぜんぜんない		7. 5	7. 1
無回答		0.2	1. 2

^{☆「}よくある」,「たまにある」を合わせた数字は4.5%下がり、「ほとんどない」,「ない」を合わせた数字は3.5%増加しました。

第2節 平成29年度末に期待された目標に対する家庭での児童生徒の読書実績と課題

項目	24年度実績	29年度末目標	29年度実績
家庭での児童生徒の1か月間読 書冊数 小学校	6 冊~ 7 冊	7 冊~ 1 0 冊	5 冊~ 6 冊
中学校	3 冊∼ 4 冊	5 冊~ 8 冊	3 冊~ 4 冊

家庭で「読み聞かせ」をしている割合は前回(平成24年度)よりも増加していますが、中学生で、「家族と読んだ本の内容について話をしますか」の質問に、「ぜんぜんしない」と答えた割合が前回よりも約8%増加して42.1%あります。

前回定めた第二期計画の29年度末目標には、小中学校とも到達しておりませんので、第三期計画 目標に到達できるよう関係機関・団体等で第三期計画の計画的な実施が望まれます。

第3節 平成29年度末に期待された目標に対する町内学校図書館の実績と課題

項目	2 4年度実績	29年度末目標	29年度実績
1人当たりの1か月間貸出冊数 小学校	3 冊	4 冊~ 5 冊	3 冊~ 4 冊
中学校	1 冊	2 冊~ 3 冊	1 冊
電算システムのネットワーク化		図書館を含む8か所	0
学校図書館非常勤司書人数	0人	7人	7人

課題として、小中学校とも野木町平均で学校図書館図書標準の冊数は超えておりますが(平成28年度分調査で小学校平均108%、中学校平均128%)、この中には古くなったりして貸出しに耐えない本も含まれていますので、除籍を進めて十分貸出しできる本を配架しなければなりません。また、平成21年度に全ての学校に電算システムが導入されて活用されておりますが、図書館内だけの活用にとどまっておりますので、町立図書館も含めた全7校のネットワークの構築が望まれます。

専任図書館司書の配置については、平成25年度より順次配置し、平成29年度には全小中学校7校に専任図書館司書を配置しました。

第4節 平成29年度末に期待された目標に対する町立図書館の実績と課題

項目	平成24年度実績	平成29年度末目標	平成28年度実績
①1年間の入館者数	113,969人		116,208人
②1年間の利用者数	52,838人	70,000人	50,043人
③1年間の貸出点数(本館)	212,412点	260,000点	195,929点
うち1年間の児童書貸出冊数	60,794冊	85 000 III	57, 813 ⊞
(移動図書館との合計)	(78,857冊)	85,000冊	(72,599冊)
④移動図書館の利用者数	6, 431人		5,947人
⑤移動図書館の貸出図書数	18,063冊		14,786冊
⑥ボランティアによる	6.5回/年	65回/年	6.6回/年
おはなし会の開催	6 5 回/年	0 3 四/平	6 6 回/年

※ ③は、貸出図書数、貸出布絵本数、貸出ビデオ・DVD・CD・テープ数の合計 (参考) 町立図書館児童書貸出数の推移

年 度	本館貸出冊数	移動図書館貸出冊数	合 計
平成25年度	56,775冊	17,612冊	74,387冊
平成26年度	53,923冊	16,631冊	70,554冊
平成27年度	59, 293冊	14,812冊	74,105冊
平成28年度	57,813冊	14,786冊	72,599冊
平成29年度	62,510冊	14,988	77,498冊

町立図書館における一般書も含めた利用者数、貸出点数及び児童書貸出冊数は、29年度末目標に届いておりません。その主な要因として、情報メディアの発達による活字離れ、読書離れ等も考えられますが、前回設定した、平成29年度末の目標値が高すぎたということも否めません。

なお、平成29年度の児童・生徒へのアンケート結果では、「図書館を利用したことがある」と回答した小学生は、前回(平成24年)と比べると僅かに減少していますが、90%を超えています。一方、中学生は前回より僅かに増加して約84%でした。このことから、多くの児童・生徒が町立図書館を利用しているといえます。

また、「町立図書館は、どんな図書館になってほしいですか」という問いに対し、「自分の読みたい本がいつでも置いてある」、「面白い本を紹介してくれる」が、小・中学生とも上位の意見であり、「パソコンが使える」、「グループ学習ができる場所がある」という意見も前回と比べ増えています。このことから、今後、図書館として、図書資料の選書・収集・配置・提供等に工夫を重ねるとともに、図書館でパソコンが十分に使えるようにしたり、グループ学習できる環境整備をするなど、子どもにとって身近で魅力のある施設となるよう努力することが求められます。

第5節 平成29年度末に期待された目標に対するこども教育課の実績と課題

項目	24年度実績	29年度末目標	29年度実績
計画推進のための財政上の措置の働	随時	随時	随時
きかけ(国・県へ)	版 时	版 时	随時

第3章 基本的な考え方

第1節 計画策定の目的

本町では、平成13年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成20年7月に「第一期・野木町子ども読書活動推進計画」(平成20年度~平成24年度)を策定しました。引き続き、平成25年3月には「第二期・野木町子ども読書活動推進計画」(平成25年度~平成29年度)を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んできましたが、この間の成果と課題を検証し、さらなる充実を図るべく「第三期・野木町子ども読書活動推進計画」(平成30年度~5年間)を策定します。

読書は、子どもの心と言葉を育てます。子どもが旺盛な好奇心で多くの経験を重ねていく中で、 読書の体験は、子どもの世界を一気に広げる力を持っています。また、読書を楽しむことによって、 豊かな情操を育むとともに、資質・能力を高めていくことができます。読書によって得た力は、子 どもにとって、人間として成長し、豊かな人生を送るための大切な力となります。

このような読書の楽しさや大切さを子どもに伝え、本と出合うための環境を整えることにより、子どもがより多くの本に親しみ、読書の習慣を身に付けられるよう、保育園、幼稚園、学校、家庭、地域、町立図書館、町教育委員会等が、連携して読書活動を推進するため、「第三期・野木町子ども読書活動推進計画」を策定するものです。

第2節 計画の柱と基本的な方向

この計画は、本町の子どもたちが、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高める」など多様な効果を持つ子ども読書活動を、より一層推進することを目指し、本町における子ども読書活動推進にあたっての基本的な方向と具体的な方策を、国や県の方針を踏まえ、次の $1\sim5$ を計画の柱として、定めました。

計画の柱	基本的な方向
1 家庭における子ど	(1)子どもが読書に親しむ機会の充実
も読書活動の推進	乳児・幼児期の健康診断時におけるブックスタート事業や図書
	館等においておはなし会等を行い、保護者に幼児期の読書の重要
	性を啓発し、子どもが読書に親しむ機会の充実に努めます。
	(2)「家読」の普及・促進
	保育園・幼稚園、小・中学校を始め、町立図書館等の関係機関
	が連携を図り、子どもに対し「家読」を奨励するとともに、保護
	者の理解を深めるための啓発活動を行い、「家読」の普及・促進に
	努めます。

2 学校における子ども読書活動の推進

(1) 学校における子ども読書習慣の形成

職員会議等を通じて読書指導の重要性や学校図書館の役割について共通理解を深めると共に、全校一斉読書活動など学校全体での読書活動の推進に努めます。

(2) 学校図書館の整備・充実

学校司書を中心に、学校図書館の「読書センター」と「学習情報センター」としての機能の充実を図るとともに、児童・生徒が図書館に親しみを持てるような館内の環境づくりと児童・生徒の興味・関心に応じた図書資料の充実に努めます。

(3) 学校司書の連携強化と資質の向上

学校司書の研修会を定期的に実施して、共通理解と資質の向上 を図り、児童生徒の読書活動及び学習活動を支援します。

3 町立図書館におけ る子ども読書活動 の推進

(1) 図書館資料の整備・充実

赤ちゃん向け絵本コーナー、ヤングアダルトコーナーにおける 図書資料の充実を図り、子どもにとって魅力のある読書環境の整 備に努めます。

(2) 図書館利用の促進

子供向けの図書資料の充実を図るとともに、子どもにとって魅力のあるイベントなどを開催し、図書館利用の促進に努めます。

(3) 乳児・幼児への支援

ブックスタートやおはなし会などを計画的・継続的に実施して、 乳幼児期に絵本を通して親子がふれあうことの大切さや、楽しさ を保護者に伝え、乳幼児の健やかな成長を支援します。

(4) 小学生への支援

移動図書館や団体貸出を継続して実施するとともに、「おはなし会」や「図書館見学」等の事業を通して、図書館や読書の楽しさに興味・関心が高まるよう努めるとともに、調べ学習や自由研究に対応できるよう郷土資料・図鑑・辞典等の充実を図ります。

(5) 中学生・高校生及び特別な支援を必要とする子への支援

中学生や高校生の興味・関心や生活時間の変化等を把握し、それに応じた選書や運営等に努めます。

また、障がいのある子どもや日本国籍を持たない子どもに対する 理解を深め、きめこまかなサービスの提供に努めます (6) 町立図書館と学校図書館の連携強化

移動図書館や団体貸出を継続して実施するとともに、図書館見 学や体験学習を積極的に受け入れ、子どもたちの読書活動推進に 努めます。また、町立図書館職員が学校司書の研修会に積極的に 参加し、連携・協力を推進します。

(7) 町立図書館と保育園・幼稚園の連携強化

おはなし会や図書館見学などを計画的・継続的に実施することにより、幼い頃から絵本に触れる機会をつくり、本を通して親子がふれあうことの大切さや楽しさを伝えていきます。

(8) 図書館ボランティアとの連携強化

図書館ボランティアが効果的な活動を展開できるよう、相互の 連携・協力を深め、ボランティア活動をより充実させていきます。 また、より多くのボランティアを募るとともに、ボランティア向 け講座等を開催し、ボランティアの資質向上を図ります。

(9) 図書館間における連携・協力の促進

県内図書館及び「関東どまんなかサミット」関係市町図書館と の相互協力体制を進め、公立図書館としての機能充実に努めます。

4 地域における子ども読書活動の推進

(1) 保育園・幼稚園等における読書活動の推進

子どもたちが本に親しみが持てるよう、継続して読み聞かせを 行うとともに、絵本コーナー等の充実を図ります。また、保護者 に対して家庭における読書活動の重要性を啓発するとともに、図 書館との連携を図りながら子ども読書活動の推進に努めます。

(2) 子育て支援センターにおける子ども読書活動の推進

図書館との連携を深め読書コーナーの充実を図るとともに、絵本の読み聞かせや紙芝居などを行い、子どもの読書活動推進に努めます。また、保護者に対し、親子で一緒に楽しめる絵本を紹介し、家庭における読書活動の啓発をしています。

(3)公民館・児童館等における子ども読書活動の推進

町立図書館と連携を図り、子どもに魅力のある図書資料を揃えるなど図書室や図書コーナーを充実させ、子どもにとって身近な読書活動の拠点になるよう努めます。また、子ども読書活動の重要性や読み聞かせについて学ぶ機会の提供などを行います。

5 普及啓発・広報活 動の推進

(1) 各種関連情報の収集提供

県の「子ども読書活動推進ホームページ」などを活用し、事業、 取組などの情報を収集して町ホームページなどで情報提供に努め ます。また、町立図書館における子ども向けの事業、新刊情報、 優良図書の紹介などの各種情報を、誰もが、いつでも、どこでも、 活用できるよう「図書館ホームページ」の充実に努めます。

(2) 総合的な啓発活動の推進

子どもの読書活動の推進に取り組む関係機関、団体等と連携・協力を図りながら町立図書館や学校を中心に年間を通して子どもの読書活動を啓発するとともに、「子ども読書の日」や「読書週間」等の機会に、家族で本に親しみコミュニケーションを図り、家族の絆を深める「家読」を推奨し、家庭における子どもの読書活動の推進を総合的に啓発していきます。

(3) 推進計画書概要版の作成、配布

野木町子ども読書活動推進計画書概要版を作成、配布します。

第3節 計画の期間及び対象

1 計画の期間

平成30年度から5年間

2 計画の対象

本計画でいう子どもとは、おおむね18歳以下の者をいいます。

なお、子ども読書活動の推進に関わる保護者をはじめ、町民ボランティア、行政関係者 等も対象としています。

第4節 財政上の措置

- 1 本計画に掲げられた各種施策を進行するため、町は必要な財政上の措置を講ずるよう努めます。
- 2 本計画の推進にあたり、役割に応じた財政上の措置を講じられるよう、県や国に働きかけます。

第2部 野木町における子ども読書活動推進のための方策

第2期推進計画を踏まえ、計画を次の5つの柱として取り組むことにする。

- 1 家庭における子ども読書活動の推進
- 2 学校における子ども読書活動の推進
- 3 町立図書館における子ども読書活動の推進
- 4 地域における子ども読書活動の推進
- 5 普及啓発・広報活動の推進

第1章 家庭における子ども読書活動の推進

【現状と課題】

子どもの読書習慣は、日常生活を通して形成されるものです。特に、乳幼児期において、 保護者が子どもと一対一で向き合い、本を繰り返し読んであげることは、子どもが保護者の 愛情を感じながら読書の楽しさに触れる第一歩です。また、学童期においては、保護者自身 が読書に親しむなど保護者の読書に対する姿勢や子どもへの働きかけが、その後の子どもの 読書活動に大きく影響するなど、家庭は子どもに読書の楽しさや大切さを伝える上で、重要 な役割を担っています。

平成29年度のアンケート調査結果では、保護者の約85%が子どもに本を読んであげた 経験があり、90%以上の保護者が読み聞かせは大切であると答えています。また、毎月行っているブックスタートに対する保護者のアンケートでは、毎回、ほぼ100%の保護者が「絵本は親子のふれあいに大切な役割があると思う」と答えています。このことは、本町においてブックスタートやおはなし会などを、長期間に渡って熱心に取り組んできた成果であると考えられます。

子どもの読書活動を推進し、読書好きの子どもを育てていくためには、保護者が読書活動の意義を理解し、家庭で子どもに読み聞かせなどを継続して行うとともに、保護者自身が読書に親しみ、子どもの読書に対する興味や関心が、自然に高まるような環境づくりが大切です。読書が生活の中に位置づけられ継続して行われるよう、様々な機会を通して啓発・支援することが必要です。

【主な取り組み】

(1) ブックスタートや読み聞かせ等の推進

乳幼児期における読書活動の重要性について家庭の理解が進んでいるのは、ブックスタートや読み聞かせ等の地道な取り組みが大きく貢献していると考えられるため、今後

も継続し、更に充実させる必要があります。しかし、ブックスタートや読み聞かせの実施は、ボランティアの活動に依存している状況であり、ボランティアの育成が極めて重要な課題です。特にブックスタートは、子育て支援事業の一環であるという認識を広く浸透させ、より多くの関係者が主体的に取り組むことが望まれます。

(2) 保育園・幼稚園における取り組み

保育園・幼稚園では、親と子の心を結び子どもの心を育んでいくことを目的として、保護者に月刊絵本の購入をお願いしています。

子どもたちは、保育園・幼稚園で保育士や友だちと 1か月間、その絵本に親しんだ後、家庭に持ち帰り親 子で絵本を読む時間を持つよう促しています。

これからも継続して行うとともに、様々な機会を通 して家庭における読書活動の意義や楽しさについて啓 発し、支援していきます。



月刊誌の絵本

(3) 家庭の理解を得るための啓発活動の推進

アンケート結果から見ると、幼い頃から本に親しむことの大切さについて、全体的には、家庭の理解は進んでいるといえますが、読書活動に関心を向ける時間的・精神的なゆとりのない保護者もいると考えられます。

今後、町立図書館を始め、保健センター、保育園・幼稚園、小・中学校、児童館、公 民館等の関係機関が連携を図り、家庭教育に関する講座や親子読書講演会等において、 家庭における読み聞かせや読書習慣の大切さについての学習機会を提供するとともに、 関係資料を配布して、より一層理解が深まるよう啓発活動を進めていきます。

(4) 家読(うちどく)の普及・推進

子どもにとって家庭は、発達段階において最も早い時期に本に興味をもち、本を手にするきっかけとなる最も身近な場所です。「子どもに本を読ませよう」とするのではなく、「子どもと一緒に本を楽しもう」という環境を作っていくことが大切です。家庭における読書活動の取り組みは、家族間のコミュニケーションを深めることにもつながり、子どもにとって、家族で本に親しみ共に過ごした時間は、人生においてその子を支え続ける大切な思い出にもなります。

平成29年度の保護者へのアンケート結果では、「家読という活動を知っている」という保護者は、前回のアンケートと比べ飛躍的に増えてはいるものの、まだ半数に満たない状態でした。「家読をしたことがある」という保護者も増えてはいるものの、60%未満という結果でした。また、児童・生徒へのアンケート結果では、「家読という活動

を知っている」という小学生は、前回と比べ4倍以上増えて約63%、中学生は約2・5倍増えて33%でした。「家読をしたことがある」と答えた小学生は約80%であり、中学生は約40%でした。

このような結果を踏まえ、小・中学校、町立図書館を始め関係機関が連携を図り、子どもに対し「家読」を奨励するとともに、保護者の理解を深めるための講座の開催や、リーフレットの配布等を行い、「家読」の普及・促進に努めます。

第2章 学校における子ども読書活動の推進

【現状と課題】

学校図書館は、「読書センター」として児童・生徒にとって読書を楽しむことができる身近な場所であるとともに、「学習情報センター」として児童・生徒の課題解決的な学習、探求的な学習等の充実に寄与する機能を併せ持った、学校教育にとって欠くことのできない施設です。また、学校図書館は、専門的職員である学校司書と司書教諭の役割が重要であり、図書資料の充実はもちろんのこと、専門的な知識と技能を身に付けなければなりません。

児童・生徒に対するアンケートには「学校図書館の利用」に関する項目はなく、利用の実態は不明であるが、「読んでみたいと思った本は、どんなきっかけで知りましたか」という問いに対して、小学生は「学校の図書館で見かけた」の回答が約20%で最多でしたが、中学生は約10%で4番目でした。このことから、町立図書館と同様に、学齢が上がるほど学校図書館との関わりが減る傾向が見られ、読書離れが進んでいるということが推測されます。また、「どんな学校図書館がいいと思いますか」という問いに対しては、「自分の読みたい本がおいてある」が小・中学生とも圧倒的に多く、小学生は約27%、中学生は約33%でした。

従って、学校司書と司書教諭は児童・生徒の興味・関心を把握し、それに応じた選書や町立図書館の団体貸出しの見直しなどを行い、図書資料の充実を図る必要があります。また、子どもの読書活動を推進するためには、学校司書と司書教諭を中心に職員間の連携や情報の共有化を図るとともに、組織的、計画的、継続的な読書活動推進体制を整えることが極めて重要です。

第1節 学校における子どもの読書習慣の形成

小学校新学習指導要領の総則では、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、 児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに児童の自主的、 自発的な学習活動や読書活動を充実すること。」と明記されています。

野木町では、すべての学校で全校一斉の読書の時間を設け、読書習慣を身につけるために

「朝の読書」に取り組んでいます。また、課題図書の推薦や読書カードの利用、図書館だよりを発行するなど、児童・生徒の読書意欲を喚起し、読書習慣を身につけるための継続的な働きかけを行っています。

望ましい読書習慣の形成が、児童生徒の人格の形成に大きな役割を担うことから、各教科等を通じて学校図書館を計画的に活用し、児童・生徒の主体的、意欲的な読書活動を推進していきます。

【主な取組み】

(1) 全校一斉読書や読み聞かせなど、学校全体での読書活動の推進

学校全体で読書活動を推進するために朝の読書活動の定着と充実を図ります。また、 国語の授業に絡めた本の紹介や季節・行事に合わせた選書・読み聞かせ・ブックトーク などの工夫をします。



【朝の読書活動】

朝の活動に「読書の時間」を設け、子ども達が本に親しむ時間を確保しています。



【図書室の整備】

新刊や雑誌など、分かりやすく展示し、親し みが持てるような環境づくりをしています。

(2) 学校職員の研修と学校内の協力体制の確立

職員会議や校内研修を通して、読書指導の重要性や学校図書館の役割について理解を 深めます。

(3) ひまわりっ子読書活動の推進

学校と地域が連携して、ひまわりっ子読書活動を進めます。

用語解説 「ブックトーク」

ある一つのテーマに沿って数冊の本を紹介すること。

第2節 学校図書館の整備・充実

学校図書館では、児童・生徒の成長に応じて、自ら読書の楽しさを知り主体的に読書に親しみ、読書体験を深めながら読書の幅を広げていくことが求められています。そのためには、児童・生徒が図書館に親しみをもてるような館内の環境づくりと、児童・生徒が興味をもち感動する本などを整えることが大切です。

図書の整備と併せて、インターネットを活用できるパソコンやプリンターの設置、書架などの設備の充実など、児童・生徒が利用しやすい学校図書館の整備・充実に取り組んでいきます。

【主な取組み】

(1) 計画的な図書館資料の整備・充実

学校図書館は、発達の段階や地域の特性等を踏まえた魅力的な本や学習に役立つ本などを充実させていきます。そのため課題図書や推薦図書などの良書に親しむ機会を増やしていきます。

また、町立図書館や国立国会図書館の団体貸し出しを積極的に利用していきます。

(2) 施設設備の整備・充実

学校図書館の施設設備については、多様な読書活動の推進が図られるよう、読書スペースの整備・充実に努めます。そのために、利用しやすい配架の工夫や廃棄本の整理、処理を行います。また、魅力ある環境にするために、企画展示コーナーを設置したり季節に合った掲示を行ったりするなどの工夫をします。

(3) 学校図書館の情報化の推進

平成21年度に7校すべてにコンピ・ューターを設置し、学校図書館の本がデータベース化されています。さらに、町内の全小・中学校及び町立図書館等の様々な情報資源にアクセスできるネットワーク環境の整備に努めます。

(4) 学校図書館ボランティアとの連携

保護者や地域住民による学校図書館ボランティアの協力を得て、学校図書館を活用した開かれた学校づくりや特色ある学校づくりを推進します。

(5) 学校図書館司書の配置

各校1名配置された学校図書館専任司書と連携を図り、児童・生徒の読書活動や学習活動を支援したり、図書資料の収集・整理・保存を進めたりしています。

第3章 町立図書館における子ども読書活動の推進

【現状と課題】

平成29年度の児童・生徒へのアンケート結果では、「図書館を利用したことがある」と回答した小学生は、前回(平成24年)と比べると僅かに減少していますが90%を超えています。一方、中学生は前回より僅かに増加して約84%でした。このことから、多くの児童・生徒が町立図書館を利用しているといえます。しかし、「図書館を利用したことがない」と回答した中学生は15.9%で、小学生の6.7%の倍以上になっています。高校生へのアンケートは行っておりませんが、学齢が上がるほど図書館を利用しない学童・生徒の割合が増加する傾向にあるといえます。

町立図書館は、子どもにとって、豊富な図書資料の中から読みたい本を自由に選択し読書を楽しめる場所であり、保護者にとっても、子どもに読ませたい本を選択したり、子どもの読書について気軽に相談できる場所です。従って、図書館職員は、利用者の様々なニーズに的確に対応できるよう、専門的な知識と技術を身につけることが必要です。

また、より多くの子どもが楽しく図書館を利用できるよう、図書資料の選択・収集・配置・ 提供等に工夫を重ねるとともに、子どもの読書活動を促進するための情報発信やイベントを定 期的に実施するなど、子どもや保護者にとって身近で魅力のある施設となるよう努力すること が必要です。

第1節 図書館資料の整備・充実

赤ちゃん向け絵本コーナー、児童コーナー、ヤングアダルトコーナーにおける図書資料の 充実を図り、子どもたちへの読書環境の整備に努めます。

また、視聴覚資料についてはVHSからDVDへの切り替えを行うなどの整備を進め、子どもたちにとって魅力のある資料の整備・充実に努めます。

第2節 図書館利用の促進

多くの子どもが楽しく効果的に図書館を利用できるよう、子供向けの図書館資料の充実を 図るとともに、定期的・継続的にテーマ別の展示・紹介等を企画し、読書への関心を高めて いきます。特に、調べ学習や自由研究などの支援のための資料の充実を図り、中学生・高校 生の図書館利用の促進に努めます。

また、子どもが図書館を訪れる機会が多くなるよう、子どもにとって魅力のあるイベントを開催します。さらに、読書の楽しさや重要性を伝えるための情報をホームページや広報紙等により提供します。

【主な取り組み】

(1) 読書ノートの活用促進

「キラリと光る読書のまち野木宣言」に伴い、平成26年度に作成し、町内の全家庭及び全小・中学生に配布しました。平成29年度には、読書ノート活用事業として「多読賞表彰式」を行い、30名の小学生が表彰されました。これからも、小・中学校、町立図書館を始め関係機関が連携を深め、読書ノートの活用を図り、図書館利用及び「家読」の普及・促進に努めます。



(2) キラリと光る読書のまちコンクール

「キラリと光る読書のまち野木宣言」を記念し、読書の習慣化を図り自己の生活の充実と豊かな心情の育成に帰することを目的として、平成26年度より実施しています。募集作品は、幼稚園・保育園児の「おはなしの絵・ゆめの絵」、小学生「読書感想画」と「読書感想文」、中学生の「読書感想文」です。

なお、審査会終了後、作品集を作成し、表彰式を行い、各部門の入賞者に対して町長が表彰しています。

これからも内容の改善・充実を図り、読書の習慣化と図書館利用の促進に努めます。



表彰式 (町長による賞状授与)

(3) 図書館まつり

平成27年度より実施している図書館まつりでは、「子どものイベント」として、「おはなし会」、「書庫探検ツアー」、「子どもクイズ大会」、「フェルトのしおり作り」などを、「おいしいイベント」として、「おいしい屋台」や「子どもの駄菓子屋」などを実施しました。

これからも継続し、子どもにとって楽しく魅力のある図書館となるよう努力します。



子どもの駄菓子屋

第3節 乳児・幼児への支援

ブックスタートやおはなし会などを計画的・継続的に実施して、幼いころから絵本やお話などに触れる機会をつくるとともに、乳幼児期に本を通して親子がふれあうことの大切さや、楽しさを保護者に伝え、乳幼児の健やかな成長を支援していきます。

読み聞かせボランティアや保育園・幼稚園・学校の教職員、保護者など、子どもの読書活動に携わる人のために役立つ資料を集めた「読書支援コーナー」を充実させ、子どもの読書活動を支援していきます。また、おはなし会をさらに充実させるとともに、「おはなしコーナー」の利用促進を図るため、「おはなしコーナー」をより広く、使いやすいよう改築・整備を進めます。

【主な取り組み】

(1) ブックスタート

地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者に対し、すくすく育ってほしいというメッセージを伝え、絵本をプレゼントする事業です。毎月1回、町保健センターにおける4ヶ月児健診時に、絵本を使った言葉かけ、ふれあい遊びを紹介し、子育てに関する資料などの入ったブックスタート・パックと絵本をプレゼントしています。

平成16年度より開始したブックスタートは、年間平均200組の親子が受けており、平成26年7月には親子2,000組を突破しました。今後、関係機関との連携を密にして、事業の改善・充実を図ります。



ブックスタート

(2) ブックスタート・フォローアップ

毎月1回、町保健センターにおける8ヶ月児健診時に、わらべうた遊び、絵本の読み聞かせなどを行った後、絵本リストの配布を行っています。また、1歳6か月児健診時には「2・3才からの絵本リスト」を、3歳児健診時には「3・4・5才からの絵本リスト」を配布しています。これからも継続し、乳幼児の健やかな成長を支援します。

(3) ブックプラスOne!

読書への関心を高め、読書を通して豊かな心を育む環境づくりを目的として、平成26度より町内の小学校に入学するすべての児童に、本を1冊プレゼントしています。これからも継続し、子どもの読書活動を支援します。



ブックプラス One! (町長より図書贈呈)

(4) 定例おはなし会

町立図書館における定例おはなし会は、毎週行っている「ピノキオ」を始め、5つのボランティア団体と町立図書館職員が、乳幼児から小学校中学年までを対象に行っています。これからも、ボランティア団体の協力を得て継続して実施するとともに、会場である「おはなしコーナー」の改築等を行うなど、さらに充実を図ります。



「ひよこの会」の定例おはなし会

(5) その他のおはなし会

町立図書館職員と読み聞かせ・朗読ボランティアによる、リレー形式のおはなし会である「おはなしマラソン」を始め、「わくわくおはなしカーニバル」、「クリスマスおはなし会」、「冬のあったかおはなし会」などを毎年実施しています。これからもボランティアの協力を得て継続し、内容の充実を図ります。



クリスマスおはなし会

(6) ドキドキ図書館ツアー

町内の保育園・幼稚園の年長クラスの幼児を対象に、町立図書館職員による図書館内の案内と、外部講師による人形劇などを行っています。幼児期から図書館に親しみ、読書への関心を高めるために非常に有効であると思われるので、これからも継続していきます。



ドキドキ図書館ツアー

(7) 親子読書講演会

親子で読書に親しむ機会の充実を図るため、外部講師 を招き毎年1回開催しています。 これからも継続し、 保護者に幼児期の読書の重要性を啓発していきます。



親子読書講演会

(8) 「布絵本」の製作

平成17年に布絵本製作ボランティア「ひまわり糸の会」が結成され、町立図書館に所蔵する布絵本の製作を開始しました。平成29年10月現在、96冊の布絵本を所蔵しており、貸し出しを行っています。

布絵本は、読むばかりでなく、「見て・触って・ 楽しめる」絵本であるため、乳児や様々なハンディキャップを持った子どもも利用することができます。すべての子どもたちに絵本の楽しみを伝えるため、ボランティアの協力を得て、これからも継続していきます。



布絵本「みにくいあひるのこ」

第4節 小学生への支援

平成29年度の児童・生徒へのアンケート結果から見ると、「本を読むことが好きですか」という問いに対し、「好き」、「どちらかといえば好き」を合わせた回答は、平成20年度及び平成24年度よりは減少していますが、小学生、中学生共に86%を超えており、読書に対する関心は高いと考えられます。

学童期の読書活動は、子どもが読解力や思考力、表現力、創造力等の基礎を養うとともに、多くの知識を得、多様な文化を理解する上で極めて重要であり、読書活動の習慣化はその後の子どもの読書活動に大きく影響しているといえます。従って、子どもが自ら読書に親しみ、読書習慣を身に付けていけるよう、子どもの興味・関心を尊重しながら、学校や保護者等と連携を図り支援していくことが重要です。これからも移動図書館や団体貸出を継続して実施するとともに、低学年の児童に対しては、「おはなし会」や「図書館見学」等の事業を通して、図書館や読書の楽しさに興味・関心が高まるよう努めていきます。中・高学年の児童に対しては、読書活動の楽しさや重要性を啓発するとともに、調べ学習や自由研究に対応できるよう郷土資料・図鑑・辞典等の充実を図ります。

【主な取り組み】

(1) 夏休み子ども図書館員体験

夏休み中の3日間、町内在住の小学5・6年生の希望者を受け入れ、子ども図書館員としてカウンター業務や本の装丁等、図書館の仕事を体験しています。子どもたちは非常に生き生きと活動し、図書館職員や来館者から好感を持たれています。

子ども図書館員を体験することにより、図書館に対する理解が深まり、読書に対する興味・関心も高まっていると思われるので、今後も継続しさらに充実を図ります。



子ども図書館員体験

(2) 小学生の図書館見学

町内の小学2年生の図書館見学を受け入れ、図書館員による館内の案内、本の貸し出し、読み聞かせなどを行っています。また、事前に寄せられた「図書館への質問事項」について回答すると共に、「キラリと光る読書のまち野木」についての説明なども行っています。

図書館に親しみ、読書への関心を高めるために非常に 有効であると思われるので、これからも継続し、受け入 れを行います。



小学生の図書館見学

第5節 中学生・高校生及び特別な支援を必要とする子への支援

野木町立図書館に限らず全国的に見ても、中学生・高校生になると図書館を利用する生徒 の割合が減少する傾向にあります。その理由としては、部活動や受験勉強等による読書時間の 減少や情報メディアの普及により映像を通して簡単に情報が得られるようになったことなど が考えられます。しかし、興味や知識の幅が広がる思春期の子どもにとって、豊かな読書体験 は言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる 力を身につけるうえで極めて重要であり、この年代の「読書離れ」を食い止めることは大きな 課題であるといえます。そのためには、中学生や高校生の興味・関心や生活時間の変化等を把 握し、それに応じた選書や運営等について再検討し、幼児期や学童期に培われた家庭における 読書活動の習慣を、中学生や高校生になっても継続できるよう努めます。

また、障がいのある子どもや日本国籍を持たない子どもに対して、その要望や必要に応じた 資料、施設設備、機材の整備充実に努めるとともに、図書館職員が障がいのある子どもや日本 国籍を持たない子どもに対する理解を深め、きめこまかなサービスの提供に努めます。

【主な取り組み】

(1) 職場体験学習などの受け入れ

町内中学校と連携協力し、「職場体験学習」や「マイ チャレンジ」で図書館を希望する生徒を受け入れていま す。また、高校で実施している「インターンシップ」で 図書館を希望する生徒の受け入れも実施しています。

図書館業務を体験し、図書館職員との親睦を深めるこ とにより、望ましい職業観や勤労観、社会人としてのマ ナーやルールを身につけると共に、地域社会や図書館に 対する理解を深め、読書に対する興味・関心をより一層 高めるため、中学校・高校との連携を図り、より多くの 生徒が体験できるよう努めます。



中学生の職場体験学習



高校生のインターンシップ

(2) 特別な支援を必要とする子どもへの支援

障がいのある子どもたちのための資料 (布絵本や点字絵本等)の製作、収集、 展示、貸出サービス等の充実を図るとと もに、保護者等への情報提供に努めます。 また、母国語が日本語以外である子ど もたちのために、外国語の絵本、児童書 などの充実を図ります。



点字絵本



外国語の絵本

第6節 町立図書館と学校図書館の連携強化

子どもの主体的な読書活動を充実させるためには、子どもにとって最も身近な施設である学校図書館と町立図書館が連携・協力し、働きかけをすることが重要です。

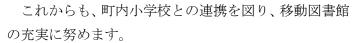
町立図書館は、移動図書館や団体貸出を継続して実施するとともに、図書館見学や体験学習 を積極的に受け入れ、子どもたちの読書活動推進に努めます。

また、町立図書館職員が学校司書の研修会に積極的に参加し、連携・協力を推進します。

【主な取り組み】

(1) 移動図書館「ひまわり号」の巡回

平成12年度より、町内5つの小学校への巡回を開始しました。各学校に毎月1回(3月、8月を除く)巡回し、図書の貸し出しを行っています。平成28年度の利用実績は、巡回回数・延50回、利用人数・延5,780人、貸し出し冊数・延14,394冊でした。





移動図書館「ひまわり号」

(2) 団体貸出

町内7つの小中学校に、それぞれ約300~500冊の図書の貸し出しを、年間2回 実施し、6ヶ月ごとに図書の入れ替えを行っています。

これからも、授業で必要な資料の他、子どもたちの要望に応じた図書の貸出しが行えるよう、学校図書館との連携を深め、団体貸出しの充実を図ります。

(3) リサイクル本の提供

年間2回行っているリサイクル市の前に、優先して町内小中学校にリサイクル本を提供するための内覧会を行っています。平成29年度には980冊の図書を提供しました。これからも継続し実施することで、学校図書館や学級文庫の充実に努めます。

(4) 職場体験学習などの受け入れ

小学生の「夏休み子ども図書館員体験」、「図書館見学」を受け入れています。 また、中学生の「職場体験学習」や「マイチャレンジ」、高校で実施している「インタ ーンシップ」で図書館を希望する生徒を受け入れています。

これからも各学校との連携を図り、より多くの生徒が体験できるよう努めます。

(5) 町立図書館職員と学校司書の連携強化

平成26年度より、年間2回、町立図書館職員と学校司書の意見交換会を行っています。また、平成29年度は、学校司書の全校配置完了に伴い年間10数回行っている学校司書研修会にも、町立図書館職員が参加しています。

これからも積極的に相互研修及び連携・強化を図っていきます。

第7節 町立図書館と保育園・幼稚園の連携強化

保育園・幼稚園や家庭で絵本や紙芝居に親しむことは、幼児の成長過程における情操教育の面で特に重要な体験です。図書館と保育園・幼稚園が連携し、保護者に細やかな情報提供を行い、子どもの暮らしの中に読書を根付かせることの意義について繰り返し啓発していきます。また、おはなし会や図書館見学などを計画的・継続的に実施することにより、幼い頃から絵本に触れる機会をつくり、本を通して親子がふれあうことの大切さや楽しさを伝え、乳幼児の健やかな成長を支援していきます。

【主な取り組み】

(1) 図書館のイベントを通しての連携

図書館の「おはなし会」や「ドキドキ図書館ツアー」などを通して、図書館と保育園・ 幼稚園が連携を深め、本を通して親子がふれあうことの大切さや楽しさを伝えていきます。

(2) 移動図書館「ひまわり号」の巡回

平成27年度より、保育園・幼稚園へ年間2回の巡回を開始しました。平成28年度の利用実績は、巡回回数・延7回、利用人数・延168人、貸出冊数・延392冊でした。これからも、保育園・幼稚園との連携を図り、移動図書館の充実に努めます。

(3) リサイクル本の提供

年間2回行っているリサイクル市の前に内覧会を行い、保育園、幼稚園にリサイクル本を提供しています。平成29年度には183冊の図書を提供しました。これからも、保育園・幼稚園との連携を図り、リサイクル本の有効活用に努めます。

(4) 町立図書館からの情報提供

乳幼児に関わる図書館の各種イベント等の案内を配布し、保育園・幼稚園および保護者と連携をとりながら、親子で本に親しむ環境づくりに努めていきます。

第8節 図書館ボランティアとの連携・協力の促進

野木町では協働のまちづくりを推進しており、多くのボランティアが活動しています。、中でも子どもの読書に関わるボランティア団体は、図書館と密接な関わりを持ちながら、他の施設でも活動を展開しているグループも多く、これらの団体が図書館や子どもに関わる施設で効果的な活動を展開できるよう、相互の協力体制を促進することが望まれます。

また、図書館ボランティアの活動は、図書館運営への住民参画という面からも極めて重要であるので、より多くのボランティアを募るとともに、計画的・継続的に初心者向けの養成講座や活動中のボランティア向け講座等を開催し、ボランティアの資質向上を図ることも重要です。

【主な取り組み】

(1) 読み聞かせボランティアとの連携・協力

5つの読み聞かせボランティア団体による「定例おはなし会」や、図書館主催の「おはなしマラソン」などのイベントにおいて、連携・協力を図っていきます。

また、「新人読み聞かせボランティア養成講座」も計画的に実施します。

(2) ボランティア団体「絵本の会」との連携・協力

ボランティア団体「絵本の会」が、毎年12月に実施している「クリスマスおはなし会」に、図書館職員も関わり、連携・協力を図ります。

(3) 「ブックスタートボランティア」との連携・協力

ブックスタートボランティアの協力を得て、ブックスタート事業を推進します。 また、毎年「ブックスタート研修」を実施し、ボランティアのスキルアップを図ります。

(4) 「布絵本製作ボランティア」との連携・協力

布絵本製作ボランティア「ひまわり糸の会」と連携・協力し、布絵本を製作します。 また、「ひまわり糸の会」が講師となり、毎年「布絵本製作体験講座」を実施し、ボランティアのスキルアップを図ります。

(5) 「図書館ボランティア」との連携・協力

平成28年度より図書館ボランティアの募集を開始し、平成29年度には24名のボランティアが登録しています。活動内容は、書架の整理、本の修理、本の美化、リサイクル本の処理、イベント等への協力、施設周辺の美化活動等であり、図書館の運営に多大な貢献をしています。これからも連携・協力を深め、より充実させていきます。

(6) 「読書のまちづくり応援団」との連携・協力

「野木町協働のまちづくり支援事業」を行う団体として、平成28年度に結成され「読書のまちづくり応援団」と連携・協力し、図書館事業を行っていきます。「読書のまちづくり応援団」の主な活動内容は、「本に親しむ活動」、「図書館に親しむ活動」、「図書館サービスを充実させるボランティア活動」であり、子どもの読書活動推進にも大きく寄与しています。

(7) 町外講師との連携・協力

子どもの読書活動推進のため、極めて意義のある「わくわくおはなしカーニバル」、「冬のあったかおはなし会」などのイベントは、 町外講師の協力を得て実施していますが、これからも連携・協力を深め、充実を図ります。

(8) 町内関係機関との連携・協力

公民館、児童館等の町内公共施設に対し、リサイクル図書の提供などを行っていますが、更に連携を深め、子どもに魅力のある図書資料を揃えるなど図書室や図書コーナーを充実させ、子どもにとって身近な読書活動の拠点になるよう整備していきます。

第9節 図書館間における連携・協力の促進

栃木県立図書館を中心とした県内図書館との相互協力体制を進め、公立図書館としての機能 充実に努めます。また、県内公立図書館のみならず、広域利用協定による「関東どまんなかサ ミット」関係市町図書館の相互協力システムがあることも利用者に周知し、他の公立図書館も 有効に活用できるよう住民への啓発を図ります。

【主な取り組み】

(1) 「県南公立図書館連絡協議会」関係市町図書館との連携・協力

「県南公立図書館連絡協議会」に所属する3市2町(栃木市、小山市、下野市、壬生町、野木町)内における、全14カ所の図書館との連携・協力を進め、図書館の相互利用の推進を図ります。

また、「県南公立図書館連絡協議会」において、運営会議や視察研修等を行い、連携・協力を図り、公立図書館としての機能充実に努めます。

(2) 「関東どまんなかサミット」関係市町図書館との協力・連携

「関東どまんなかサミット」を構成する4市2町(古河市、加須市、栃木市、小山市、板倉町、野木町)内における、全25カ所の図書館との連携・協力を進め、図書館の相互利用の推進を図ります。

(3) 「県立図書館」との連携・協力

県立図書館を中心に、栃木県内54カ所の公立図書館と連携・協力を進め、図書資相 互貸借の推進を図ります。また、県立図書館が主催する「児童サービス研修会」、「図書 館協力ネットワーク会議」等に参加し、連携・協力を図ります。

第4章 地域における子ども読書活動の推進

【現状と課題】

地域における子どもの読書活動を推進するためには、いつでも身近なところに本があり、楽 しく読書活動ができる環境を整備することが大切です。

特に、子どもが利用する地域の公共施設として、公民館は多様な学習の機会や集会の場、住民の学習需要に応える地域に密着した場であるとともに、子どもから大人まで気軽に集える社会教育施設であり、児童館は児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し情操を豊かにすることを目的とした児童福祉施設です。これらの施設は町民にとって最も身近な学習拠点であり、活動・交流の場であることから、町立図書館と連携を図り、子どもに魅力のある図書資料を揃えるなど図書コーナーを充実させ、子どもにとって身近な読書活動の拠点になることが望まれます。

また、保育園や幼稚園で、紙芝居や読み聞かせなどを体験し絵本にふれあうことは、幼児の成長過程における情操教育の面でも、その後の子どもの読書活動に与える影響の面でも、極めて重要であるといえます。

保育園、幼稚園においては、これからも継続しておはなし会や図書館見学など幼い頃から絵本に触れる機会をつくり、保護者に対しては、本を通して親子がふれあうことの大切さや楽しさを伝え、図書館と連携し読書活動を推進するとともに、細やかな情報提供を行い、子どもの暮らしの中に読書を根付かせることの意義について繰り返し啓発していくことが重要です。

第1節 保育園・幼稚園等における子ども読書活動の推進

保育園・幼稚園は、多くの子どもたちが家庭から離れて初めて体験する集団の場です。乳 幼児期に絵本に触れることや紙芝居の読み聞かせなどを体験することで、疑似体験をするこ とができ、心を育むことができます。

この時期に絵本に触れることにより視野が広がり、言葉を習得し、伝え合う喜びを知ることができます。保育園・幼稚園の生活の中で、話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うためにも、友達と楽しい時間を共に過ごし、絵本の世界に触れることが大切であり、さらにその中の興味関心を持った本から世界を広げていくことができます。

これからも、絵本コーナー等を充実させ、絵本にふれあう機会を多くしていきます。

また、保護者に対して家庭における読書活動の重要性を啓発するとともに、図書館との連携を図りながら子ども読書活動の推進に努めます。

【主な取り組み】

(1) 絵本の部屋(絵本コーナー)及び読み聞かせの充実

自分の好きな本を選び、好きなところで読んだり(絵本との出会い)、ここで選んだ本を先生に読んでもらったり(絵本と先生との出会い)、興味のある本を家庭に持ち帰り保護者と一緒に読んだり(絵本と保護者との出会い)、絵本を中心に様々なコミュニケーションがとれるよう、好きな本と出合えるよう絵本の部屋(絵本コーナー)の整備に努めます。また、子どもたちが本に親しみ、本に対する興味関心が持てるよう、読み聞かせの充実を図ります。







絵本の部屋



大型絵本の読み聞かせ

(2) 絵本をテーマにした表現活動の充実

絵本の世界を楽しみながら表現力を育成することを目指し、夏祭りのときには、子どもたちの好きな絵本の世界をお神輿や山車にしたり、発表会のときには、お話の世界をオペレッタや劇で発表してきました。これからも継続し表現力の育成を図るとともに、子どもの読書活動推進に努めます。



夏祭り・5歳児のおみこし『めっきらもっきら どおんどん』



発表会・3歳児のオペレッタ『三びきのやぎのがらがらどん』

(3) 保護者への啓発

子どもの発達段階に応じた絵本を保護者に紹介したり、保護者に読み聞かせを体験してもらうことで、保護者が子どもと共に絵本の世界を楽しんでもらえるように努めます。

(4) 図書館との連携

図書館との連携を密にして、親子で参加できるおはなし会などの開催案内を配布する ことにより参加を促し、家庭における読書活動の啓発に努めます。

第2節 子育て支援センターにおける子ども読書活動の推進

子どもの健やかな育成を目的とする子育て支援センターでは、子どもの心の栄養となる本との関わりを充実させる必要があります。

今後も、図書館との連携を深め読書コーナーの充実を図るなど、子どもの読書活動の推進に 努めます。

【主な取り組み】

(1) 読書に親しむ環境づくりの推進

日々の諸活動に入る前に、支援センター担当保育士による、絵本の読み聞かせや紙芝居などを毎日実施しています。

また、月に1回のお誕生会では、パネルシアター・ペープサートなどを行い、子ども たちの絵本に対する興味や関心が高まるようにしています。

さらに、保護者に対し、親子で一緒に楽しめる絵本を紹介し、家庭における読書活動 の啓発をしています。これからも内容を充実させ、子どもの読書活動推進に努めます。

第3節 公民館・児童館等における子ども読書活動の推進

子どもが利用する地域の公共施設として、公民館と児童館は図書館同様、子どもたちにとって身近な学習拠点であり、活動・交流の場であります。地域における子どもの読書活動を推進するためには、いつでも身近なところに本があり、楽しく読書活動ができる環境を整備することが大切であるので、今後も町立図書館と連携を図り、子どもに魅力のある図書資料を揃えるなど図書コーナーを充実させ、子どもにとって身近な読書活動の拠点になるよう努めます。

第5章 普及啓発・広報活動の推進

【現状と課題】

「子ども読書の日」や「子ども読書週間」は、子どもの読書活動についての関心や理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられています。

本町においては、この時期に、町立図書館をはじめ各学校等において、子どもが本に親しむための事業を行っていますが、子どもに読書の楽しさや大切さを伝える上で最も重要な役割を担っているのは家庭であり、子どもの身近にいる大人がまず読書活動に理解と関心を持つとともに、自ら読書に取り組むことが重要であると考えられます。

しかし、平成29年度のアンケート結果では「家読という活動を知らない」という保護者は約56%、中学生は約66%という高い数値でした。今後、あらゆる機会を通して、「読書のまち野木宣言」や「家読」の周知を図るとともに、子どもの読書活動推進に向けた社会的気運が高まるよう、啓発・広報活動を充実させることが必要です。

第1節 各種関連情報の収集・提供

県の「子ども読書活動推進ホームページ」などを活用し、国、県、市町や学校、図書館、民間団体における、子どもの読書活動に関する様々な事業・取り組みなどの情報を積極的に収集し、「図書館ホームページ」などの各種情報媒体を通して情報を提供します。

また、町立図書館における子供向けの事業、新刊情報、優良図書の紹介などの各種情報を、誰もが、いつでも、どこでも、活用できるよう「図書館ホームページ」の充実に努めます。

第2節 総合的な啓発活動の推進

栃木県においては、「栃木の子どもをみんなで育てよう」運動の実践目標の一つとして、「本の時間をつくろう」を明示し、各家庭や地域で子どもとともに本に親しむことの大切さを訴えています。

本町においても、町立図書館や学校を中心に年間を通して子どもの読書活動を啓発するとともに、「子ども読書の日」や「読書週間」等の機会に、家族で本に親しみコミュニケーションを図り、家族の絆を深める「家読」を推奨し、家庭における子どもの読書活動の推進を総合的に啓発していきます。

【主な取り組み】

(1) 読書の意義や重要性についての啓発

町立図書館、保育園・幼稚園、小・中学校を始め、子ども読書活動推進に取り組む関係機関等が互いに連携・協力を図りながら、広報誌や行事等を通して計画的・継続的に、読書の意義や重要性について啓発します。

(2) 「子ども読書の日」など、読書に関わる日の啓発と関連事業の実施

春の「子ども読書の日」、「子ども読書週間」や秋の「読書週間」など、子どもの読書に関わる日について広報誌等で啓発するとともに、その趣旨にふさわしいおはなし会や講演会などの関連事業を実施して、子どもの読書活動推進に努めます。

(3) 発達段階に応じた推薦図書リストの提供

図書館だよりや学校図書館だより等を通して、おすすめの本や新しい本を紹介たり、 乳児から幼児、児童、生徒と発達段階に応じた推薦図書リストを提供するなど、本選び の手助けをすることにより、読書意欲を高め、読書習慣の醸成に努めます。

(4) 町立図書館利用の促進・啓発

図書館だよりや図書館ホームページ等の工夫改善を図るとともに、施設見学、体験学習等の行事を充実させ、図書館利用の促進や子ども読書活動の推進についての啓発に努めます。

(5) 「家読」の推進

町立図書館、保育園・幼稚園、小・中学校を中心に、関係機関が連携を図り、「家読」 の意義や重要性について啓発し、「家読」の推進に努めます。

第3節 推進計画概要版の作成

「野木町子ども読書活動推進計画書」の概要版を作成・配布し、子ども読書活動の推進に努めます。

2022年度末に期待される目標

○家庭での児童生徒の1か月間読書冊数目標

項目	2017年度実績	2022年度末目標
家庭での児童生徒の1か月間読書冊数 小学校	5冊~6冊	7 冊~ 8 冊
中学校	3 冊∼ 4 冊	4 冊∼ 5 冊

○学校において期待される目標

項目	2017年度実績	2022年度末目標
1人当たりの1か月間貸出冊数 小学校	3 冊	4 冊∼ 5 冊
中学校	1 ∰	2 冊∼ 3 冊
電算システムのネットワーク化		図書館を含む8か所

○図書館において期待される目標

項目	2017年度実績	2022年度末目標
本館における1年間の児童書貸出冊数	62,510冊	65,000冊
移動図書館における1年間の利用者数	6,491人	7,000人
移動図書館における1年間の貸出冊数	14,988冊	15,500冊

○こども教育課において期待される目標

項目	2017年度実績	2022年度末目標
計画推進のための財政上の措置の働き	P+n+	P 七 n 七
かけ(国・県へ)	随時	随時

資 料 編

•	野木町子ども読書活動推進計画策定委員会設置要領・・・・・・・・・	1
	野木町子ども読書活動推進計画策定委員会、作業班名簿・・・・・・・ 2	2
	野木町子ども読書活動推進計画(第三期)策定アンケート調査の概要・・・	4
•	・野木町立図書館所蔵・布 絵 本 一 覧・・・・・・・・・・・ 1 ′	7
•	・野木町立図書館所蔵・基本絵本一覧・・・・・・・・・・ 15	9
•	・野木町立図書館所蔵・特大絵本一覧・・・・・・・・・・ 23	3
•	・ボランティア団体一覧・・・・・・・・・・・・・・25	5
•	・野木町の概況と「キラリと光る読書のまち野木宣言」・・・・・・・裏詞	奉 紙

野木町子ども読書活動推進計画策定委員会設置要領(内規)

(設置)

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号)第9条第2項の規定に基づく、野木町子ども読書活動推進計画(以下「推進計画」という。)の策定に関し必要な事項を協議するため、野木町子ども読書活動推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、推進計画策定のための必要な事項を協議し、野木町教育委員会(以下「教育委員会」 という。)に提言する。

(組織)

- 第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。
- 2 委員長には教育長をもって充て、副委員長には教育次長、こども教育課長及び生涯学習課長をもって充てる。
- 3 委員は、別表に掲げる者をもって充てる。

(委員長及び副委員長の職務)

- 第4条 委員長は会務を総理する。
- 2 副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(会議)

- 第5条 委員会は、委員長が招集する。
- 2 会議の議事進行は、委員長がこれに当たる

(作業班)

- 第6条 委員会の円滑な運営のため、委員会に作業班を置く。
- 2 作業班は、班長、副班長及び班員をもって組織する。
- 3 班長には、こども教育課学校教育係長を副班長には生涯学習課生涯学習係長をもって充てる。
- 4 班員は、別表に掲げる者をもって充てる。
- 5 作業班の会議は、必要に応じて班長が招集し、これを主宰する。
- 6 作業班の所管事務は、推進計画案の作成に関することとする。
- 7 班長は、必要があると認めるときは、会議に班員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。 (委員の任期)
- 第7条 委員の任期は、委嘱の日から第2条の提言を行う日までとする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会事務局主管課において処理する。

(委任)

第9条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営その他必要事項は、委員長が別に定める。

附則

この要領は、平成20年2月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成24年8月1日から施行する。

附則

この要領は、平成29年8月1日から施行する。

野木町子ども読書活動推進計画策定委員会名簿

第3条第3項関係

714 0 214214 0										
委員長	教	育	委	員	会	教育長	菊	地	良	夫
						教育次長	黒	須	勝	美
副委員長	教	育	委	員	会	こども教育課長	田	村	君	恵
		生涯学習課長	赤	坂	孝	夫				
	町 P T A		代表	黒	須	E	人			
	図代	書館	1 協	荔	会表	会長	松	澤	孝	Ξ
委員	図記代	書館協	議会	会校县	· 表	南赤塚小学校長	大	澤	治	亮
	町	健身	€ 福	新 祉	課	課長	石	渡		真
	町	<u>1</u>	図	書	館	館長	池	澤		渥
	町	保	:	育	所	いちご保育園園長	石	木	祐	子
	町	幼	į	稚	澎	法得幼稚園園長	大	中	清	見

野木町子ども読書活動推進計画策定委員会作業班名簿

第6条第4項関係

班		長	教	育	委	員	\triangle	٦	ど	ŧ	教	育	課	係	長	藤	田	順	子
副	班	長	教	Ħ	安	貝	会	生	涯	7	学	習	課	課長補佐	兼係長	金	谷	利	至
								友	沼	/	1/	学	校	教	諭	野	П	由	紀
			学				校	(里	予教研	子図青	書館	部会县	룬)						
								野	木	Ē	中	学	校	教	諭	平	間	淳	子
								(野	教研	図書	書館畐	川部会	長)						
班		員			町			健	康	†	畐	祉	課	課長補佐	兼係長	真	瀬	英	樹
			教	育	委	員	会	図		Ī	書		館	課長補佐	兼係長	柿	沼	好	江
							般	図	書	館	協	議	会	委	員	大	石	美 知	子
							列又	Р		,	Γ		A	代	表	黒	須	正	人
			保		育		所	٧١	ち	٢	保	育	園	主	任	梅	原	千	春
			幼		稚		園	法	得	Ý	幼	稚	園	教	諭	茂	呂	貴 代	美
			≯ ₩	女	禾	吕	\triangle	¥	ليا _	4	₩-	去	≑ ⊞	指導	主事	中	島	亮	_
事	務	局	教	育	委	員	会	Ŋ	۲	B	教	育	課	主	查	鈴	木	康	弘
			図		書		館	図		Ī	書		館	主	任	渡	邉	真	弓

野木町子ども読書活動推進計画(第三期)策定アンケート調査の概要

- 1 小・中学生の読書に関するアンケート調査
 - (1) アンケート対象
 - ①町内学校に通学する小学3年、小学5年の児童
 - ②町内学校に通学する中学2年の生徒
 - (2) アンケート内容

児童・生徒の読書活動の現状及び町立図書館、学校図書館への要望

(3) 実施期間

平成29年12月

(4) 回収結果

610名(646名中) 回収率94.4%

- 2 保護者の読書に関するアンケート調査
 - (1) アンケート対象
 - ①いちご保育園、法得幼稚園に通う年長児の保護者
 - ②町内学校に通学する小学3年、小学5年児童の保護者
 - ②町内学校に通学する中学2年生徒の保護者
 - (2) アンケート内容

読み聞かせ等の読書活動の現状及び町立図書館、学校図書館への要望

(3) 実施期間

平成29年12月

- (4) 回収結果
 - 658名(752名中) 回収率87.5%

読書に関する実態アンケート調査 集計結果

児童・生徒用

※このアンケートの中の「本」とは、まんがや雑誌以外のものとします。

※図書館とは町立図書館とします。

問1 あなたは、本を読むことが好きですか。

(%)

	小	学	生	中 学 生			
	H20.4	H24.10	H29.12	H20.4	H24.10	H29. 12	
①好き	58. 9	59. 7	51.6	47.9	45.8	50. 6	
②どちらかといえば好き	31. 4	30. 9	35. 0	38. 1	42.3	35. 8	
③どちらかといえばきらい	7. 6	6. 9	9. 5	11. 1	10. 1	10.8	
④ きらい	2. 1	2. 5	4. 4	2.9	1.8	2.8	

☆小学生、中学生とも「好き、どちらかと言えば好き」を合わせた数字は86%を超えておりますが、平成20年、平成24年より減少しています。

間2 あなたは、1か月にどのくらい本を読みますか。

(%)

	小	学	生	中 学 生			
	H20.4	H24.10	H29. 12	H20.4	H24.10	H29. 12	
① 1 ~ 2 冊	18.8	10.4	14. 3	38. 1	45. 2	37. 5	
② 3 ~ 4 ⊞	22. 5	25. 7	27. 5	40.7	29.8	27.8	
③ 5 ~ 7 ⊞	21. 4	19. 7	20.8	12.6	9.5	15. 9	
④ 8~10冊	12. 1	15. 6	13. 9	2. 2	2.4	4.6	
⑤ 11冊以上	19. 3	26. 9	16.6	1. 7	8.3	7.4	
⑥ ほとんど読まない	5. 9	1. 7	6. 9	4.7	4.8	6.8	

◇小学生では、4年前に比べて月に1~6冊本を読む児童が増加していますが、8冊以上本を読む児童は減少しています。また、ほとんど本を読まない児童が大幅に増加しています。

☆中学生は、1か月に1~4冊本を読む生徒は減少していますが、5~10冊本を読む生徒は大幅に増加しています。また、本をほとんど読まない生徒は多少増加しています。

問3 あなたは、どんな本が好きですか。(2つまで)

(%)

1110 03.815181 C10.8414 V1 C C) V	0 (2 > 6)	. /				(/ 0 /	
	,	小 学 生	1	中 学 生			
	H20.4	H24.10	H29.12	H20.4	H24.10	H29.12	
① 物語	31. 5	31. 1	29.0	39. 9	38. 1	39. 2	
② 伝記	7.0	9.4	11.3	5. 1	4. 7	2. 3	
③ 童話	8. 2	5. 7	6. 2	4.0	2.4	3. 1	
④ 趣味やスポーツ	18. 1	14.3	12.4	17. 1	12.5	12. 5	
⑤ ノンフィクション	10.6	6.7	8.0	15. 1	12.8	9. 9	
⑥ 図鑑	15. 7	13. 1	8. 1	2.0	2.4	2. 6	
⑦ その他	8.9	15. 5	14.8	16.8	12.5	12. 5	
無回答		4. 2	8. 2		14. 6	17. 9	

☆小学生、中学生ともに大きな傾向の変化は見られません。無回答が小学生で8.2%、中学生で17.9%ありました。

間4 あなたは、一日にどのくらいの時間、本を読みますか。

小 学 生 中学生 H20.4 H24.10 H29.12 H20.4 H24.10 H29.12 ①30分以下 34.6 36.8 41.0 25.5 48.8 33.0 ②30分~1時間くらい 35.9 42.0 33. 2 37.5 31.0 34.5 ③1時間~1時間30分くらい 3. 7 9.1 5. 5 6.5 5.9 8.5 ④1 時間30分~2時間くらい 4.0 4.0 1.2 0.4 3.6 0.6 ⑤ 2 時間以上 5.3 6.9 9.7 7.4 1.3 3.6 ⑥ほとんど読まない 16.5 35.3 無回答 0.7 12.2 3.6 10.8

問5 あなたが今までに読んでみたいと思った本は、どんなきっかけで知りましたか。(2つまで)

(%)

(%)

	/	小 学 生			中学生			
	H20.4	H24.10	H29.12	H20.4	H24. 10	H29. 12		
①学校の図書館で見かけた	21. 2	16. 5	20.3	2. 9	9.8	10. 2		
②町の図書館で見かけた	18.8	18.6	13. 9	2. 7	2. 7	4.6		
③本屋で見かけた	25. 7	23.0	17. 1	39. 0	35. 7	31.8		
④友達に教えてもらった	10.8	11. 1	12.8	21. 9	13. 4	16. 2		
⑤先生にすすめられた	1.9	1.6	1. 7	0.0	0.6	. 6		
⑥親にすすめられた	3. 3	5. 3	4. 3	4.8	3.9	3. 1		
⑦新聞・雑誌で見かけた	2. 2	1.9	1.6	8. 3	4. 2	2.8		
⑧映画で知った	6. 5	4. 2	5.8	6.8	8.3	10. 5		
⑨テレビ・ラジオで知った	5. 3	5. 6	4. 7	9. 5	7.4	5. 4		
⑩その他	4. 3	7. 9	7. 3	4. 1	5. 4	4. 3		
無回答		4. 3	10.6		8.6	10.5		

[☆]小学生は「学校の図書館で見かけた」が4年前より増加しており最多です。中学生では、4年前と同様、「本屋で見かけた」が最多です。小学生、中学生ともに「友達に教えてもらった」「映画で知った」が増加しています。

間6 あなたは、読書についてどのように考えていますか。(2つまで)

no waters, mare at cease,		6)700 (2	7 7 6 ()			(/0 /	
	,	小 学 生		中 学 生			
	H20.4	H24.10	H29. 12	H20.4	H24. 10	H29. 12	
①楽しさや感動を与えてくれる	20.8	20.2	17.3	26. 7	26.5	28. 7	
②読書することによって創造力や考	16. 1	13.0	15. 3	17.7	17.3	16.8	
える力や読み書きの力がつく							
③知らないことを知ることができる	27. 1	24.0	23.0	13. 5	15.8	9. 7	
④家族や友だちとの話題が増える	4.0	5.3	7.8	7.0	5.3	4.8	
⑤物語の主人公になった気分になれ	8.3	9.0	6. 2	6. 1	6.2	7. 7	
る							
⑥気分転換になる	10.0	16.3	13.4	20.3	16. 4	12. 2	
⑦その他	1. 1	7.6	6.2	0.7	2. 7	2.6	
無回答		4.6	10.7		9.8	17. 6	

[☆]小学生、中学生ともに大きな傾向の変化は見られません。

[☆]小学生、中学生とも読書時間、30分以下及び30分から1時間くらいの児童・生徒が大多数ではありますが、、中学生では、2時間以上読書する生徒が増加しています。

問7の1 問2で⑥を選んだ人にお聞きします。本をほとんど読まない理由は何ですか。 それ以外の人は 問8へ

	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24.10	H29.12	H20.4	H24.10	H29.12
①読書はしたいが時間がない	4. 1	0.0	13. 3	1.7	0.6	8.3
②読書をするなら別なことをした	3. 3	1.0	50.0	3.5	1.2	66. 7
V						
③読書がめんどう	1. 5	0.0	20.0	1.5	1.8	25. 0
④その他	1. 1	0.0	10.0	0.7	1.2	0.0
無回答		99.0	6. 7		95. 2	0.0

☆前々回調査のときは問6と問7の1を合わせて質問していましたが、今回も分けて、ほとんど読書をしない子供に対して問7の1の質問を行いました。小学生・中学生ともには、「読書をするなら別なことをしたい」と答えた者がいました。(アンケートを答えた児童434人中、この質問に該当する者は30人。同じく生徒176人中該当する者は12人。)

問702 問701で①または②を選んだ人にお聞きします。その理由は何ですか。(3つまで) (%)

	,	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24. 10	H29.12	H20.4	H24.10	H29. 12	
①勉強や塾	11. 3	0.0	2.8	16. 7	0.4	14.8	
②習い事や趣味	23. 9	0.2	7.8	13.3	0.2	18. 5	
③学校のクラブや部活動	4. 2	0.0	2.2	10.0	0.8	7.4	
④ゲーム	32.4	0.4	14.4	43.3	0.2	22. 2	
⑤テレビ・DVDなど	2.8	0.2	11.1	3.3	0.0	11. 1	
⑥携帯電話・メール		0.0	2. 2		0.0	3.7	
⑦まんが、雑誌	11. 3	0.2	6. 7	6. 7	0.2	3.7	
⑧家の手伝い	2.8	0.0	4.4	0.0	0.2	7.4	
⑨その他	11. 3	0.1	2. 2	6. 7	0.4	3. 7	
無回答		98. 9	46. 7		97. 6	7.4	

☆ほとんど読書をしないと答えた児童・生徒に対して、その理由が「①時間がないや②別なことをしたい」 と答えた者に対しての理由を聞くものであり、結果は、小学生は、「習い事や趣味」「ゲーム」「テレビ・ DVDなど」が多く、中学生は、「習い事や趣味」「テレビ・DVDなど」が多く回答しています。

問8 あなたは、読む本をどんな方法で用意していますか。(2つまで) (%)

	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24.10	H29. 12	H20.4	H24.10	H29. 12
①学校の図書館で借りる	30. 3	26. 2	33. 2	1. 7	11.9	17. 1
②図書館で借りる	18. 3	21.8	18.8	1. 3	5. 1	3. 7
③自分のおこづかいで買う	13. 7	10. 7	8.3	46. 7	31.6	25. 6
④親・家族に買ってもらう	19. 4	18. 3	16.8	36. 3	22. 3	25. 0
⑤家にある本	16. 1	12. 1	10.3	5. 3	10. 7	4. 6
⑥友達から借りる	0.0	2. 1	2.4	7. 9	7. 1	12.8
⑦自分または家の電子ブック		1.4	0.8		0.9	2.8
⑧その他	2.2	3. 9	3.3	0.8	2. 4	1.7
無回答		3. 5	6. 1		8.0	6.8

☆小学生・中学生ともには、「学校の図書館で借りる」が大幅に増えました。

問9 図書館を利用したことがありますか。 ①はいを選んだ人は、問11へ進んでください。 (%)

	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24. 10	H29.12	H20.4	H24.10	H29. 12
①はい	90. 5	94. 6	90. 1	89.6	81.5	84. 1
②いいえ	9. 5	5. 2	6. 7	10.4	17. 9	15. 9
無回答		0. 2	3. 2		0.6	0.0

☆全体的な傾向については、あまり変更は見られませんでした。

②を選んだ人にお聞きします。 図書館を利用しないのはなぜですか。(2つまで) (%)

	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24.10	H29. 12	H20.4	H24.10	H29. 12
ア読みたい本がない	28. 3	0.8	12.8	37. 1	3.9	16. 1
イ図書館が遠い	33. 4	1.0	22.4	29. 7	4. 1	23. 2
ウ利用する時間がない	17.9	1. 1	12. 1	14.8	3.9	21.4
エ読書がきらい	5. 1	0.0	5.2	3. 7	0.3	3.6
オ図書館の場所がわからない	5. 1	0.4	5. 2	3. 7	0.3	3.6
カその他	10. 2	1.0	15. 5	11.0	1.8	7.2
無回答		95. 7	27.6		85. 7	25. 0

☆町の図書館を利用したことがないと答えた子供に利用しない理由を聞いたものです。小学校・中学生は、 全ての項目に該当者がいました。

(アンケートの答えた児童434人中、この質問に該当する者は29人。同じく生徒176人中該当する者は28人。)

問10 図書館は、どんな図書館になってほしいですか。(2つまで)

(%)

	1	小 学 生			中 学 生	
	H20.4	H24. 10	H29.12	H20.4	H24. 10	H29.12
①面白い本を紹介してくれる	18. 5	3. 2	20.7	12. 2	12. 2	17.2
②自分の読みたい本がいつでも置い	52. 5	5. 6	29. 3	63. 4	21. 7	31.0
てある						
③調べものや勉強に役立つ本がいつ	17. 4	3. 2	15. 5	11.9	4.8	6. 9
でも置いてある						
④おはなし会や映画会などの行事を	2.6	1. 7	5. 2	1.3	0.6	3. 5
行っている						
⑤図書館のパソコンが使える	4. 1	2. 3	8.6	3. 9	7. 4	10.3
⑥グループ学習ができる場所がある	1. 1	1.4	6. 9	1.7	3.0	6.9
⑦その他	3.8	0.7	3. 5	5. 6	1. 2	5. 2
無回答		81. 9	10.3		49. 1	19.0

☆小学生、中学生とともに、平成20年と同じく「自分の読みたい本がいつでも置いてある」が一番多かったです。

問11 あなたは、どんな学校図書館がいいと思いますか。(2つまで)

						(70)	
	1	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24. 10	H29. 12	H20.4	H24.10	Н29.12	
①面白い本を教えてくれる	18.8	14. 0	17. 3	19.8	13. 4	12. 5	
②いつでも本のことを教えてくれ	5. 4	5. 1	8.0	2. 2	3. 3	4.83	
る人がいる							
③自分の読みたい本が置いてある	33. 6	27. 5	26.8	42. 1	33. 9	32. 95	
④調べものや勉強に役立つ本が置	16. 1	9. 9	11. 2	13. 2	7. 7	7. 7	
いてある							
⑤おはなし会が行われている	2. 3	1.9	1.3	0.0	0.3	0.6	
⑥楽しい行事を行っている	4. 2	4. 2	4. 7	7.8	3. 9	3.4	
⑦学校が休みでも図書館は開いて	13.8	10. 2	8.8	7.6	8.0	7. 1	
いる							
⑧本を読んだり、調べたりする机	4.8	4. 9	4.0	5. 1	6. 3	8.0	
がたくさんある							
⑨パソコンが使える		14. 3	11.6		13. 4	12. 2	
⑩その他	1.0	3.6	3. 1	2. 2	2.4	1.7	
無回答		4. 4	3. 2		7.4	9.1	
無回答		4. 4	3. 2		7. 4		

[☆]小学生、中学生とも平成20年と比べて傾向は大体同じです。

問12 あなたは、家族と読んだ本の内容について話をしますか。

	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24.10	H29.12	H20.4	H24.10	H29. 12
①よくする	18. 1	16. 2	14.8	6. 4	9.5	6.8
②たまにする	40. 1	34. 4	35. 2	32. 9	28. 0	26. 7
③あまりしない	24. 0	25. 7	28. 2	26. 4	28. 0	24. 4
④ぜんぜんしない	17.8	23.7	21.8	34. 3	34. 5	42. 1

[★]小学生、中学生とも平成20年と比べて傾向は大体同じですが、中学生が家族と読んだ本の内容について 話を「ぜんぜんしない」が増えています。

問13 あなたは、家族に本をすすめたり、家族から本をすすめられたりしたことがありますか。 (%)

	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24.10	H29. 12	H20.4	H24.10	H29. 12
①よくある		16. 3	19. 6		10.1	11. 4
②たまにある		35. 3	32. 5		40. 5	31.3
③ほとんどない		23. 5	25. 1		20.8	25.6
④ない		24. 7	22.4		28.6	31.8
無回答		0.2	0.5		0.0	0.0

[☆]前回のアンケートから新たに設けた質問であり、小中学生とも「よくある」「たまにある」を合わせると 50%を超える数字でした。

問14 「家読(うちどく)」という活動を知っていますか。

	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24.10	H29. 12	H20.4	H24. 10	H29. 12
①知っている		16.8	63. 1		14. 3	33. 0
②知らない		83. 2	36. 4		85. 1	65. 9
無回答		0.0	0.5		0.6	1. 1

☆「家読(うちどく)」という活動については、小学生・中学生ともに増加が見られました。特に小学生においての増加が顕著です。

問15 あなたは、「家読(うちどく)」をしたことがありますか。

(%)

	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24. 10	H29. 12	H20.4	H24.10	H29. 12
①よくする		11. 4	16.6		7.2	4.6
②たまにする		18. 5	29.3		9. 5	14. 2
③したことがある		19. 0	33. 7		20. 2	22. 7
④ない		51. 1	20.3		63. 1	58. 5

☆「家読(うちどく)」をしたことがありますか。と聞いたところ、小学生は「よくする」「たまにする」 「したことがある」を合わせて8割近くが家読(うちどく)したことがありました。また、中学生でも4 割の生徒がしたことがありました。

問16 あなたには心に残っている本やもう一度読んでみたい本がありますか。

(%)

	小 学 生			中 学 生		
	H20.4	H24.10	H29.12	H20.4	H24.10	H29. 12
①ある	70.4	78.5	79. 7	59. 7	70.8	73.6
② <i>たい</i>	29.6	21.5	20. 3	40.3	29. 2	26. 4

☆小中学生とも「心に残っている本やもう一度読んでみたい本がある」が平成24年に比べて増加しました。

読書に関する実態アンケート調査 集計結果

保護者用

※このアンケートの中の「本」とは、まんがや雑誌以外のものとします。 ※図書館とは町立図書館とします。

問1 読み聞かせは大切と思いますか。

(%)

	保 護 者		
	H 2 0. 4	H24.10	H29.12
①思う	90.9	89.0	91.0
②思わない	1. 2	1. 2	1. 8
③どちらとも言えない	7. 9	9.8	7. 3

[☆]平成24年の時と同じく保護者は読み聞かせは大切と思っています。

問2 あなたは本が好きですか。

(%)

	保護者		
	H 2 0. 4	H24.10	H29.12
①はい	57.5	55.9	56.8
②いいえ	5. 1	10.3	11.5
③どちらとも言えない	37.4	33.8	3 1. 7

[☆]今回、若干「本が好き」と「きらい」が共に増加したことが分かります。

問3 図書館で本を借りますか。

(%)

	保 護 者		
	H 2 0. 4	H24.10	H29.12
①よく借りる	12.0	14.4	12.2
②ときどき借りる	36.2	36.6	36.5
③ほとんど借りない	51.8	48.8	51.3
無回答		0. 2	0.0

[☆]平成24年の時と比べて傾向は同じですが、「よく借りる」が減り、「ほとんど借りない」 が増加しています。

問4 問3で③を選んだ人にお聞きします。図書館でほとんど借りないのはなぜですか。 それ以外の人は問5へ

	保 護 者		
	H 2 0. 4	H 2 4. 1 0	H29.12
①読みたい本がない		4. 3	3. 0
②図書館が遠い		5. 4	3. 2
③利用する時間がない		26.1	33.8
④読書がきらい		3. 4	3. 7
⑤図書館の場所がわからない		0. 2	0.0
⑥その他		8. 5	8. 5
無回答		5 2. 1	47.8

[☆]平成24年の時と比べて、「利用する時間が無い」が増加しています。

問5 図書館は、どんな図書館になってほしいですか。(2つまで)

	保 護 者		
	H 2 0. 4	H 2 4. 1 0	H 2 9. 1 2
①いつでもレファレンスサービスが		14.5	11.2
受けられる			
②自分の読みたい本がいつでも置い		25.6	26.7
てある			
③調べものや勉強に役立つ本がいつ		25.0	27.3
でも置いてある			
④おはなし会や映画会などの行事を		6. 9	6. 5
行っている			
⑤図書館のパソコンが使える		7. 3	7. 5
⑥グループ学習ができる場所がある		12.0	11.5
⑦その他		2. 8	3. 4
無回答		5. 9	6. 0

^{☆「}自分の読みたい本がいつでも置いてある」と「調べものや勉強に役立つ本がいつでも置いてある」が多く、前回と比べても若干増加しています。このことから、利用者のニーズにあった本が図書館にあることが求められていると分かります。

問6 あなたは、どんな学校の図書館がいいと思いますか。(2つまで) (%)

	保 護 者		
	H 2 0. 4	H24.10	H 2 9. 1 2
①面白い本を教えてくれる		11.3	13.9
②いつでも本のことを教えてくれる		18.0	16.8
人がいる			
③自分の読みたい本が置いてある		15.0	16.1
④調べものや勉強に役立つ本が置い		16.1	15.6
てある			
⑤おはなし会が行われている		2. 2	1. 2
⑥楽しい行事を行っている		6. 5	6.6
⑦学校が休みでも図書館は開いてい		10.6	9.8
る			
⑧本を読んだり、調べたりする机が		10.6	11.4
たくさんある			
⑨パソコンが使える		7. 1	5. 5
⑩その他		0.9	0. 5
無回答		1. 7	2. 5

^{☆「}面白い本を教えてくれる」と「自分の読みたい本が置いてある」が多く、前回と比べても若干増加しています。このことから、町図書館と同様に、子どものニーズに合った本が学校図書館にあることが求められていると分かります。

問7 あなたは、子どもに本を読んであげた経験はありますか。

	保 護 者		
	H 2 0. 4	H24.10	H 2 9. 1 2
①よくある	30.8	36.6	39.3
②たまにある	50.5	48.4	45.2
③あまりない	17.2	13.4	14.3
④ない	1. 5	1. 6	0. 7
無回答	0	0	0.5

問8 あなたは、子どもにどれくらいの回数、本を読んであげていますか。 (%)

	保 護 者		
	H 2 0. 4	H24.10	H 2 9. 1 2
①毎日	3. 2	4. 4	5. 2
②週に3回~4回	4. 7	9. 5	8. 1
③週に1回~2回	12.0	12.0	15.8
④月に1回~2回	17.1	18.5	20.5
⑤月に1回以下	17.2	18.7	20.2
⑥していない	45.8	35.3	29.4
無回答		1. 6	0. 7

[☆]この質問も前回と比べて傾向は変わりませんが、「読み聞かせをしていない」が5%以上 減少しており、約70%が月に一度は読み聞かせをしていることが分かります。

注 問7、問8の設問は中学生の保護者は含んでいません。

問9 今の子どもは「読書離れ」が進んでいると言われていますが、あなたは、その理由は 何だと思われますか。(3つまで) (%)

	ı			
		保 護 者		
	H 2 0. 4	H 2 4. 1 0	H 2 9. 1 2	
①勉強や塾	9. 0	9. 1	10.6	
②習い事や趣味	(9.0)	9.8	10.3	
③学校のクラブや部活動	2. 9	4. 5	4. 4	
④ゲーム	74.5	27.1	26.3	
⑤テレビ・DVDなど	(74.5)	22.7	23.2	
⑥携帯電話・メール		8. 2	14.1	
⑦まんが、雑誌	4. 5	9. 4	4. 2	
⑧家の手伝い		0.3	0. 1	
⑨その他	4. 7	3. 2	1. 6	
無回答		5. 7	5. 2	

[☆]前回と比較して、「携帯電話・メール」が5.9%増加しており、「ゲーム」や「テレビ・ DVDなど」と合わせると、全体の63.6%となっています。

[☆]前回と比べて傾向は同じですが、「よくある」が2.7%増加しています。

問10 あなたは、どうすれば今の子どもたちがもっと本を読むようになると思われますか。 (3つまで) (%)

		保 護 者	
	H 2 0. 4	H 2 4. 1 0	H 2 9. 1 2
①子どもが小さい時から、親が本の	17.7	16.3	15.3
読み聞かせをする			
②子どもが小さい時から、親子で本	44.3	19.1	21.4
を読む時間をつくる			
③子どもが小さい時から、親子で図	3. 6	11.5	13.2
書館等へ出かける			
④テレビやテレビゲームの時間を短	6. 7	13.7	14.2
くする			
⑤家の近くに図書館等の本を借りら	3.8	7. 3	7. 3
れる施設があるとよい			
⑥学校や町の図書館等に子どもが読	7. 0	8. 2	9.4
みたい本をもっとたくさん置く			
⑦学校教育の中に「朝の読書」など	11.9	12.3	12.9
の時間を増やす			
®わからない	3. 2	0.8	1. 2
9その他	1. 8	1. 5	1. 1
無回答		9. 3	4. 1

☆H24と順位は大きな違いはありませんでした。「子どもが小さい時から、親子で本を読む 時間をつくる」が19.1%から21.4%に、今回2.3%よくなっています。やはり、 理由の第1位になっています。理由の第2位は、前回と同じく「子どもが小さい時から、親 が本の読み聞かせをする」でした。前回も今回も第3位は、「テレビやテレビゲームの時間を 短くする」でした。順位は前回と同じでした。無回答も4. 1%ありました。

問11 あなたは、家族と読んだ本の内容について話をしますか。

(%)者 保 護 H20.4 H24.10 H29.12 ①よくある 7.8 10.0 11.3 ②たまにある 43.5 43.3 41.2 ③あまりない 38.2 31.2 32.2 ④ぜんぜんない 15.2 10.5 14.2 無回答

☆この質問に対する回答の傾向は前回と同様であり(この質問は小中学生にも行っています)、 「たまにある」が1位であり、「よくある」と合わせて52.5%であり前回の53.3% よりも若干減少しています。

問12 あなたは、家族に本をすすめたり、家族から本をすすめられたりしたことがありま すか。 (%)

	保 護 者		
	H 2 0. 4	H 2 4. 1 0	H 2 9. 1 2
①よくある		10.7	12.9
②たまにある		44.4	45.7
③ほとんどない		31.0	28.7
④ない		13.6	11.7
無回答		0.3	1. 1

^{☆ 「}たまにある」が40%強で一番多く、「よくある」と合わせた割合は60%近くとなって います。

問13 「家読(うちどく)」という活動を知っていますか。

	保 護 者		
	H 2 0. 4	H 2 4. 1 0	H29.12
①知っている		15.2	42.5
②知らない		8 4. 1	56.3
無回答		0. 7	1. 2

<u>~</u>家読ということばの知名度が、27.8%上がり、42.5%になっています。

問14 あなたは、「家読(うちどく)」をしたことがありますか。

		保 護 者		
	H 2 0. 4	H 2 4. 1 0	H29.12	
①よくする		5. 2	5. 3	
②たまにする		18.2	23.2	
③したことがある		24.1	29.9	
④ない		5 2. 0	40.2	
無回答		0.5	1. 4	

[☆]半数以上が「よくする」「たまにする」も含めてしたことがあるとの回答でした。

問15 あなたは、図書館や書店で借りるまたは買うときに、親子で本を選んだことがありますか。 (%)

7 . 0			(/0/
		保 護 者	
	H 2 0. 4	H 2 4. 1 0	H29.12
①よくある		18.9	20.0
②たまにある		55.9	50.3
③ほとんどない		17.5	21.4
④ない		7. 5	7. 1
無回答		0. 2	1. 2

^{☆「}よくある」「たまにある」を合わせた数字は4.5%減少し、「ほとんどない」「ない」を 合わせた数字は3.5%増かしました。

問16 あはたは、子どもに何冊くらい図書館や書店から借りたりまたは買い与えましたか。 (%)

		保 護 者	•
	H 2 0. 4	H24.10	H29.12
①週に1冊くらい		22.6	21.6
②週に2冊~5冊くらい		16.8	16.3
③週に6冊以上		2. 6	3. 4
④年に10冊以下		49.0	48.5
⑤借りたり買い与えたりしていない		4. 9	5. 5
無回答		4. 1	4.8

[☆]順位は前回と同様で「年に10冊以下」が一番多く48.5%で、「週に1冊くらい」が 21.6%で第2位でした。

No.	作品No.	書名	原作者	製作者	製作・寄贈年度
1	1	あれあれ?	多田ヒロシ	渡辺順子	2004 (寄贈)
2	2	あれあれ?	多田ヒロシ	ひまわり糸の会	2004
3	3	これなあに?		牧川早予子	2004 (寄贈)
4	4	たのしいえんそく		牧川早予子	2004 (寄贈)
5	5	つくってみよう		牧川早予子	2004 (寄贈)
6	6	のりもの		牧川早予子	2004 (寄贈)
7	7	いないいないばあ	松谷みよ子	ひまわり糸の会	2005
8	10	いくつ?		ひまわり糸の会	2005
9	13	いないいないばあ	松谷みよ子	ひまわり糸の会	2005
10	14	じどうしゃくるるん	まついのりこ	ひまわり糸の会	2005
11	17	おひさま	小川友江	ひまわり糸の会	2006
12	18	おべんとう おべんとう うれしいな	小川友江	ひまわり糸の会	2006
13	20	ビーだま いくつ?	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2006
14	22	ハイキング	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2006
15	25	Greeting	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2006
16	27	おやつ	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2007
17	29	わっ!	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2007
18	31	かくれんぼ だあれ	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2007
19	33	さかな	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2007
20	35	まる	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2008
21	37	おはようおやすみ	_	ひまわり糸の会	2008
22	39	どんぐりころころ	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2008
23	41	どうぶつ	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2008
24	43	おかあさん	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2008
25	45	むし	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2009
26	46	ちえあそび	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2009
27	48	のりもの	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2009
28	50	トイレいこう	百田 昭子	ひまわり糸の会	2009
29	53	くだもの	ひまわり糸の会	ひまわり糸の会	2009
30	55	だれのうち?	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2009
31	57	My Book	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2009
32	59	ちょう ちょう	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2010
33	61	ひよこ ひよこ	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2010
34	63	ちいさい おおきい	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2010
35	65	こんこんくしゃんのうた	ぐるーぷもこもこ	ひまわり糸の会	2010
36	67	おむすびころりん	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2010
37	69	ぼくわたしのまち	やまだゆきこ	ひまわり糸の会	2011

野木町立図書館 布絵本一覧 平成30年3月現在

38	71	こんちゅう えあわせ	のぐちみつよ	ひまわり糸の会	2011
39	73	このいろ なあに	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2011
40	74	おおかみとななひきのこやぎ	山田由紀子	ひまわり糸の会	2012
41	76	うみのともだち	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2012
42	78	みにくいあひるのこ	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2013
43	80	とけい	のぐちみつよ	ひまわり糸の会	2013
44	82	ななつのこ	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2013
45	84	おおきくなったらなんになりたい?	ぐるーぷもこもこ	ひまわり糸の会	2013
46	86	ひまわり	ひまわり糸の会	ひまわり糸の会	2013
47	87	いただきます	ひまわり糸の会	ひまわり糸の会	2014
48	88	いただきます(おすし)	ひまわり糸の会	ひまわり糸の会	2014
49	89	おべんとう(和食)	ひまわり糸の会	ひまわり糸の会	2014
50	90	おこさまランチ	ひまわり糸の会	ひまわり糸の会	2014
51	91	ならべて!	ひまわり糸の会	ひまわり糸の会	2015
52	93	のんちゃん (ももいろ)	ひまわり糸の会	ひまわり糸の会	2016
53	94	のんちゃん (きいろ)	ひまわり糸の会	ひまわり糸の会	2016
54	95	どれみのうた	ふきのとう文庫	ひまわり糸の会	2017

No.	書名	著者名	出版者	出版年
1	チキン・サンデー	パトリシア・ポラッコ/著	アスラン書房	2013
2	ベンのトランペット	レイチェル・イザドラ/著	あかね書房	2009
3	ブレーメンのおんがくたい	ハンス・フィッシャー/絵	福音館書店	2012
4	さんねん峠	李 錦玉/著	岩崎書店	2011
5	ワニのライルがやってきた	バーナード・ウェーバー/著	大日本図書	2015
6	ふきまんぶく	田島征三/文・絵	偕成社	2014
7	ターちゃんとペリカン	ドン フリーマン/著	ほるぷ出版	2014
8	なにをかこうかな	マーグレット/作	文化出版局	2013
9	こいぬがうまれるよ	ジョアンナ・コール/文	福音館書店	2014
10	おさるとぼうしうり	エズフィール・スロボドキーナ/作・絵	福音館書店	2014
11	とりになったきょうりゅうのはなし	大島 英太郎/著	福音館書店	2013
12	せかいいちおいしいスープ	マーシャ・ブラウン/著	岩波書店	2015
13	さくら	長谷川 摂子/著	福音館書店	2015
14	富士山にのぼる	石川 直樹/著	教育画劇	2013
15	よるのねこ	ダーロフ・イプカー/著	大日本図書	2012
16	ねむりひめ	フェリクス・ホフマン/絵	福音館書店	2009
17	ガンピーさんのふなあそび	ジョン バーニンガム/著	ほるぷ出版	2007
18	かあさんのいす	ベラ B. ウイリアムズ/著	あかね書房	2015
19	三びきのやぎのがらがらどん	マーシャ・ブラウン/画	福音館書店	2017
20	おばけのジョージー	ロバート ブライト/著	福音館書店	2009
21	へびのクリクター	トミー・ウンゲラー	文化出版局	1996
22	太陽へとぶ矢	ジェラルド マクダーモット/作	ほるぷ出版	1998
23	おふろだいすき	松岡 享子/作	福音館書店	2017
24	こぎつねこんとこだぬきポン	松野 正子/著	童心社	1996
25	おじさんのかさ	佐野 洋子/著	講談社	1993
26	かちかちやま	おざわ としお/再話	福音館書店	2016
27	かえるをのんだととさん	日野 十成/著	福音館書店	2008
28	ありがたいこってす	マーゴット ツェマック/著	童話館出版	2014
29	ねこのくにのおきゃくさま	シビル ウェッタシンハ/著	福音館書店	2015
30	かさどろぼう	シビル ウェッタシンハ/著	徳間書店	2015
31	干し柿	西村 豊/著	あかね書房	2006
32	ひとまねこざる 改版	H. A. レイ/著	岩波書店	2016
33	ウルスリのすず	ゼリーナ・ヘンツ/著	岩波書店	2013
34	ロバのシルベスターとまほうのこいし	ウィリアム・スタイグ/著	評論社	2016
35	たまごからうま	酒井 公子/著	偕成社	2013
36	おしゃべりなたまごやき	寺村 輝夫/著	福音館書店	2002
37	チムとゆうかんなせんちょうさん	エドワード・アーディゾーニ/著	福音館書店	2015

38	彼の手は語りつぐ	パトリシア・ポラッコ/著	あすなろ書房	2014
39	ふしぎなナイフ	中村 牧江/著	福音館書店	1997
40	おばあちゃんにおみやげを	イフェオマ・オニェフル/著	偕成社	2000
41	わゴムはどのくらいのびるかしら 改訂新版	マイク・サーラー/著	ほるぷ出版	2014
42	カエルくんのおひるね	宮西 達也/著	すずき出版	2016
43	雪の写真家ベントレー	ジャクリーン・ブリッグズ・マーティン/著	ビーエル出版	2013
44	あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま	イヨンギョン/著	福音館書店	2012
45	あなぐまメルくん	大友 康夫/著	福音館書店	1999
46	つきよのおんがくかい	山下 洋輔/著	福音館書店	2015
47	がちょうのペチューニア	ロジャー・デュボワザン/著	冨山房	2014
48	時計つくりのジョニー	エドワード アーディゾーニ/著	こぐま社	2015
49	まあちゃんのながいかみ	たかどの ほうこ/著	福音館書店	2016
50	きつねのホイティ	シビル ウェッタシンハ/著	福音館書店	1994
51	おちゃのじかんにきたとら	ジュディス・カー/著	長崎/童話館	1994
52	おとなしいめんどり	ポール・ガルドン/著	長崎/童話館	1994
53	だごだごころころ	石黒 なみ子/著	福音館書店	1993
54	ギルガメシュ王ものがたり	ルドミラ・ゼーマン/著	岩波書店	2014
55	あたごの浦	脇 和子/著	福音館書店	1993
56	アンナの赤いオーバー	ハリエット・ジィーフェルト/著	評論社	2012
57	二ひきのこぐま	イーラ/著	こぐま社	2013
58	がちゃがちゃどんどん	元永 定正/著	福音館書店	1990
59	なんでも見える鏡	フィツォフスキ/著	福音館書店	1989
60	かぞえうたのほん	岸田 衿子/著	福音館書店	1990
61	おかえし	村山 桂子/著	福音館書店	2016
62	いちご	平山 和子/著	福音館書店	1989
63	みるなのくら	おざわ としお/著	福音館書店	2012
64	ゆうかんなアイリーン	ウィリアム・スタイグ/著	セーラー出版	2013
65	うまかたやまんば	おざわ としお/著	福音館書店	2014
66	ガラスめだまときんのつののヤギ	田中 かな子/訳	福音館書店	2013
67	こねこのぴっち	ハンス・フィッシャー/著	岩波書店	2013
68	よかったねネッドくん	チャーリップ,レミー/著	偕成社	1995
69	おまたせクッキー	パット・ハッチンス/著	偕成社	2014
70	きこりとおおかみ	山口 智子/著	福音館書店	1987
71	くんちゃんのだいりょこう	ドロシー・マリノ/著	岩波書店	2015
72	サリーのこけももつみ	ロバート・マックロスキー/著	岩波書店	2015
73	くだもの	平山 和子/著	福音館書店	2017
74	11ぴきのねこ	馬場 のぼる/著	こぐま社	1985
75	あおくんときいろちゃん	レオ・レオーニ/著	至光社	1967

76	ごろごろにゃーん	長 新太/著	福音館書店	2016
77	にぐるまひいて	ドナルド・ホール/著	ほるぷ出版	2015
78	ちびゴリラのちびちび		ほるぷ出版	2015
79	かしこいビル		ペンギン社	2003
80	ペレのあたらしいふく	エルサ ベスコフ/著	福音館書店	2017
81	はたらきもののじょせつしゃけいていー			2014
82	もりのなか	マリー ホール エッツ/著	福音館書店	2014
83	ぐるんぱのようちえん	西内 みなみ/著	福音館書店	2016
84	かもさんおとおり	ロバート・マックロスキー/著		2015
85	ふしぎなたけのこ	松野 正子/著	福音館書店	1963
86	おおきなかぶ	トルストイ/著	福音館書店	1972
87	ゆかいなかえる	ジュリエット・キープス/著	福音館書店	1982
88	いたずらきかんしゃちゅうちゅう	バージニア リー バートン/著	福音館書店	1982
89	しずくのぼうけん	マリア テルリコフスカ/著	福音館書店	2015
90	いっすんぼうし	石井 桃子/著	福音館書店	2013
91	ふるやのもり	瀬田 貞二/著	福音館書店	1965
92	いたずらこねこ	バーナディン クック/著	福音館書店	2013
93	はなをくんくん	ルース クラウス/著	福音館書店	2015
94	フレデリック	レオ・レオニ/著	好学社	2013
95	ティッチ	パット ハッチンス/著	福音館書店	2014
96	スーホの白い馬	大塚 勇三/著	福音館書店	1982
97	わたしとあそんで	マリー・ホール・エッツ/著	福音館書店	2014
98	おなかのかわ	瀬田 貞二/著	福音館書店	2017
99	うさぎのいえ	内田 莉莎子/著	福音館書店	1978
100	はなのすきなうし	マンロー リーフ/著	岩波書店	2017
101	しっぽのはたらき	川田 健/著	福音館書店	2015
102	かばくん	岸田 衿子/著	福音館書店	1969
103	すてきな三にんぐみ	トミー・アンゲラー/著	偕成社	2015
104	ちいさいおうち	バージニア・リー・バートン/著	岩波書店	2015
105	ゆきのひ	エズラ・ジャック・キーツ/著	偕成社	2014
106	のろまなローラー	小出 正吾/著	福音館書店	1965
107	王さまと九人のきょうだい	赤羽 末吉/画	岩波書店	2015
108	こぶじいさま	松居 直/著	福音館書店	1964
109	おばあさんのすぷーん	神沢 利子/著	福音館書店	2016
110	ちいさなねこ	石井 桃子/著	福音館書店	1963
111	100まんびきのねこ	ワンダ ガアグ/著	福音館書店	2015
112	かさじぞう	瀬田 貞二/著	福音館書店	1982
113	三びきのこぶた	瀬田 貞二/訳	福音館書店	2017

114	だるまちゃんとてんぐちゃん	加古 里子/著	福音館書店	1967
115	しろいうさぎとくろいうさぎ	ガース ウィリアムズ/著	福音館書店	1982
116	ぐりとぐら	なかがわ りえこ/著	福音館書店	1963
117	はけたよはけたよ	神沢 利子/著	偕成社	2015
118	しずかなおはなし	サムイル マルシャーク/著	福音館書店	2014
119	かにむかし	木下 順二/著	岩波書店	2014
120	スキーをはいたねこのヘンリー	メリー・カルホーン/著	佑学社	1986
121	せんたくかあちゃん	さとう わきこ/著	福音館書店	1978
122	おさらをあらわなかったおじさん	フィリス・クラジラフスキー/著	岩波書店	1992
123	じごくのそうべえ	田島 征彦/著	童心社	2015
124	どうながのプレッツェル	マーグレット・レイ/著	福音館書店	2014
125	ものぐさトミー	ペーン デュボア/著	岩波書店	1977
126	くわずにょうぼう	稲田 和子/著	福音館書店	1977
127	チワンのにしき	赤羽 末吉/著	ポプラ社	2016
128	やまなしもぎ	平野 直/著	福音館書店	1989
129	よあけ	ユリー・シュルヴィッツ/著	福音館書店	2015
130	おやすみみみずく	パット・ハッチンス/著	偕成社	2011
131	ふわふわくんとアルフレッド	ドロシマリノ/著	岩波書店	1992
132	はじめてのおつかい	筒井 頼子/著	福音館書店	1976
133	くまのビーディーくん	ドン・フリーマン/著	偕成社	2015
134	ジルベルトとかぜ	マリー・ホール・エッツ/著	冨山房	2010
135	かいじゅうたちのいるところ	モーリス・センダック/著	冨山房	2015
136	ろくべえまってろよ	灰谷 健次郎/著	文研出版	1975
137	くまのコールテンくん	ドン・フリーマン/著	偕成社	2013
138	アンガスとあひる	マージョリー・フラック/著	福音館書店	2015
139	ねずみくんのチョッキ	なかえ よしを/著	ポプラ社	2016
140	ことばあそびうた	谷川 俊太郎/著	福音館書店	1973
141	やまんばのにしき	松谷 みよ子/著	ポプラ社	2013
142	ちからたろう	今江 祥智/著	ポプラ社	2013
143	子うさぎましろのお話	佐々木 たづ/著	ポプラ社	1993
144	おだんごぱん	瀬田 貞二/訳	福音館書店	2017
145	はちうえはぼくにまかせて	ジオン, ジーン/作	ペンギン社	2014
146	したきりすずめ	石井 桃子/再話	福音館書店	2017
147	つきのぼうや	イブ・スパング・オルセン/著	福音館書店	1975
148	げんきなマドレーヌ	ベーメルマンス,ルドウィッヒ/著	福音館書店	2014
149	スモールさんののうじょう	レンスキー, ロイス/著・絵	福音館書店	1999
150	からす たろう	八島 太郎/文・絵	偕成社	1997
151	ベーコンわすれちゃだめよ!	ハッチンス, パット/著	偕成社	1977

No.	書名	著者名	出版者	出版年
1	パパ、お月さまとって!	エリック・カール/著	偕成社	2015
2	うみの100かいだてのいえ	岩井 俊雄/著	偕成社	2014
3	おこだでませんように	くすのき しげのり/著	小学館	2014
4	へんしんオバケ	あきやま ただし/著	金の星社	2012
5	だるまさんと	かがくい ひろし/著	ブロンズ新社	2013
6	みんなうんち	五味 太郎/著	福音館書店	2011
7	しっぽのはたらき	川田 健/著	福音館書店	2011
8	だるまさんの	かがくい ひろし/著	ブロンズ新社	2013
9	ちか100かいだてのいえ	岩井 俊雄/著	偕成社	2010
10	せんろはつづく	竹下 文子/著	金の星社	2010
11	だるまさんが	かがくい ひろし/著	ブロンズ新社	2013
12	はじめてのおつかい	筒井 頼子/著	福音館書店	1999
13	もりのおふろ	西村 敏雄/著	福音館書店	2010
14	100かいだてのいえ	岩井 俊雄/著	偕成社	2009
15	いつもいっしょに	こんの ひとみ/著	金の星社	2009
16	かばくん	岸田 衿子/著	福音館書店	2001
17	おばけびょうきになる	ジャック デュケノワ/著	ほるぷ出版	2008
18	きつねのでんわボックス	戸田 和代/著	金の星社	2008
19	ふしぎなキャンディーやさん	みやにし たつや/著	金の星社	2008
20	ぶんぶくちゃがま	佐竹 玲/文	メイト	2003
21	いたずらラッコとおなべのほし	神沢 利子/著	あかね書房	2003
22	おかしなかくれんぼ	山脇 恭/著	チャイルド本社	2008
23	めっきらもっきらどおんどん	長谷川 摂子/著	福音館書店	2008
24	ぐりとぐらのえんそく	中川 李枝子/著	福音館書店	2008
25	へんしんトンネル	あきやま ただし/著	金の星社	2011
26	ゆうたはともだち	きたやま ようこ/著	あかね書房	2014
27	たからものはなあに?	吉田 隆子/著	金の星社	2011
28	ぽんたのじどうはんばいき	加藤ますみ/著	チャイルド本社	2007
29	とべ バッタ	田島 征三/著	偕成社	2006
30	まどからおくりもの	五味 太郎/著・画	偕成社	2005
31	そらまめくんのベッド	なかや みや/著・画	福音館書店	2001
32	せんたくかあちゃん	さとう わきこ/著・画	福音館書店	2005
33	こすずめのぼうけん	ルース・エインズワース/著	福音館書店	2004
34	ぐりとぐらのおきゃくさま	中川 李枝子/著	福音館書店	2005
35	きょだいなきょだいな	長谷川 摂子/著	福音館書店	2006
36	ぶたくんと100ぴきのおおかみ	宮西 達也/著	すずき出版	2006
37	たまごねえちゃん	あきやま ただし/著	すずき出版	2006
38	はなすもんかー!	宮西 達也/著	すずき出版	2006
39	おまえうまそうだな	宮西 達也/著	ポプラ社	2006
40	やさしいライオン	やなせ たかし/著	フレーベル館	2006
41	ともだちや	内田 麟太郎/著	偕成社	2006

			T T	
42	わんぱくだんのはしれ!いちばんぼし		チャイルド本社	2006
43	くまのコールテンくん	ドン フリーマン/著	偕成社	2006
44	もりのかくれんぼう	末吉 暁子/著	偕成社	2006
45	でんしゃにのって	とよた かずひこ/著	アリス館	2006
46	へびくんのおさんぽ	いとう ひろし/著	すずき出版	2006
47	つきよのくじら	戸田 和代/著	すずき出版	2005
48	ウララちゃんのたんじょうび	山本 なおこ/著	ポプラ社	2005
49	ダンゴムシみつけたよ	皆越 ようせい/著	ポプラ社	2011
50	すみっこのおばけ	武田 美穂/著	ポプラ社	2005
51	ぱっくんおおかみときょうりゅうたち	木村 泰子/著	ポプラ社	2005
52	おっぱい	みやにし たつや/著	すずき出版	2005
53	どうぞのいす	香山 美子/著	チャイルド本社	2005
54	となりのたぬき	せな けいこ/著	すずき出版	2005
55	たまごにいちゃん	あきやま ただし/著	すずき出版	2003
56	999ひきのきょうだい	木村 研/著	チャイルド本社	2005
57	わゴムはどのくらいのびるかしら?	マイク サーラー/著	ほるぷ出版	2005
58	よくばりすぎたねこ	さとう わきこ/著	メイト	2005
59	トーマスきゃくしゃをひく	ウィルバート オードリー/原著	ポプラ社	2004
60	かたあしだちょうのエルフ	おのき がく/著	ポプラ社	2004
61	ちからたろう	いまえ よしとも/著	ポプラ社	2004
62	ふゆのよるのおくりもの	芭蕉 みどり/著	ポプラ社	2004
63	はじめてのおるすばん	しみず みちを/著	岩崎書店	2004
64	にじいろのしまうま	こやま 峰子/著	金の星社	2005
65	どんぐりたろうのき	鶴見 正夫/著	佼成出版社	2004
66	ひさの星	斎藤 隆介/著	岩崎書店	2004
67	ちいさなきいろいかさ	もり ひさし/著	金の星社	2005
68	しりとりのだいすきなおうさま	中村 翔子/著	すずき出版	2005
69	うさぎのくれたバレエシューズ	安房 直子/著	小峰書店	2004
70	半日村	斎藤 隆介/著	岩崎書店	2004
71	くじらだ!	五味 太郎/著	岩崎書店	2004
72	おばけのてんぷら	せな けいこ/著	ポプラ社	2004
73	ありとすいか	たむら しげる/著	ポプラ社	2004
74	ぴょーん	まつおか たつひで/著	ポプラ社	2011
75	おじさんのかさ	佐野 洋子/著	講談社	2003
76	ぼくのくれよん	長 新太/著	講談社	2003
77	ぼくにげちゃうよ	マーガレット W. ブラウン/著		2008
78	にゃーご	宮西 達也/著・画	すずき出版	2003
79	花さき山	斎藤 隆介/著	岩崎書店	2003
80	ちいさなくれよん	篠塚 かをり/著	金の星社	2002
81	モチモチの木	斎藤 隆介/著	岩崎書店	2002
82	すてきな三にんぐみ	トミー・アンゲラー/著	偕成社	2004
83	からすのパンやさん	加古里子/著	偕成社	1997
	V) V C O	/H H - L 1 / 1	111/2/14	1001

特大絵本一覧 野木町立図書館 平成30年3月現在

84	ぞうくんのさんぽ	なかの ひろたか/著	福音館書店	1999
85	ぐるんぱのようちえん	西内 みなみ/著	福音館書店	1999
86	かわいそうなぞう	土家 由岐雄/著	金の星社	1999
87	はらぺこあおむし ビッグブック	エリック・カール/著	偕成社	1994
88	三びきのこぶた	瀬田 貞二/訳	福音館書店	1998
89	おおきなかぶ	トルストイ,A/再話	福音館書店	1998
90	ぐりとぐら	中川 李枝子/著	福音館書店	1998

野木町立図書館

ボランティア団体一覧 平成30年3月現在

No.	団体名	代表者	主な活動場所	会員数
1	夢ぽけっと	植竹 由起子	野木小学校	12人
2	こんぺいとう	小湊 敏子	友沼小学校	9人
3	スイトピー	日向野 理恵	佐川野小学校	3人
4	ミックスジュース	関勝	南赤塚小学校	25人
5	ふきのとう	林 幸子	新橋小学校	7人
6	ルピナス	斉藤 和江	新橋児童館	1人
7	新橋小ブックシェルフ	内堀のかおる	新橋小学校	19人
8	グレース森	石井 幸子	野木町立図書館	5人
9	ピノキオ	飯島 八江子	野木町立図書館	14人
10	絵本の会	西巻 ちず子	野木町立図書館	4人
11	昔話の会	笹倉 利江	野木町立図書館	4人
12	ひよこの会	青木 洋子	野木町立図書館	6人
13	紙芝居の会	桑原 貴子	野木町立図書館	19人
14	くれよん	吉光寺 文子	野木町立図書館	5人
15	ひまわり糸の会	佐々木 茂美	野木町立図書館	14人
16	読書のまちづくり応援団	松澤 孝三	野木町立図書館	7人
17	朗読の会「のぎく」	勝又 將雄	野木町社会福祉協議会	14人

野木町の概況と「キラリと光る読書のまち野木宣言」

栃木県の最南端に位置し、北は小山市、南は茨城県古河市と接する野木町は、県の南の玄関口です。東京へ約60Km, 宇都宮へ約40Kmの距離にあり、都市と農村が調和した自然が豊かな住みやすい町です。町の西側には、栃木・群馬・埼玉・茨城の4県にまたがる日本最大の遊水地である渡良瀬遊水地が広がっています。

面積は30.25K㎡、人口は約2万5千人、県内で一番小さな町ですが「小さくてもキラリと光るまち」をキャッチフレーズに、「水と緑と人の和でうるおいのある町」を目指しています。また、読書活動が人生を充実させる上で大切な役割を担うものと捉え、町・学校・幼稚園・保育園・企業・家庭など地域全体で読書環境を整え、町民一人ひとりが心豊かで生きる喜びにあふれる「文化の香り高い読書のまち」を目指し、平成26年に「野木町民の読書活動の推進に関する条例」を制定し、「キラリと光る読書のまち野木」を宣言しました。

キラリと光る読書のまち野木宣言

わたしたちは、心豊かで、文化の薫り高いまちをめざして、ここに 「キラリと光る読書のまち野木」を宣言します。

- □ わたしたちは 家族の絆が深まる家読に取り組みます。
- □ わたしたちは いつでも本に親しむ朝読・灯読・雨読に取り組みます。
- □ わたしたちは 気軽に楽しむ楽読に取り組みます。

<用語解説>

- ◆ 「家読(うちどく)」とは、家族で読書をすることです。読書を通して家族の絆を深めようとするものです。
- ◆ 「朝読 (あさどく)」とは、学校等で始業前に読書をすることです。子どもたちに読書を 習慣づけようとするものです。
- ◆ 「灯読(よるどく)」とは、昼耕夜読のことです。昼間は勤労等に励み、夜は灯りの下で 読書をすることです。
- ◆ 「雨読(うどく)」とは、晴耕雨読のことです。晴れた日には勤労等に励み、雨の日には 家で読書をすることです。
- ◆ 「楽読(らくどく)」とは、小説や詩、エッセイ等を、気楽に楽しむ読書をすることです。